

令和 6 年度

水産多面的機能発揮対策活動報告書

令和 7 年 3 月

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会

目次

I. はじめに	1
II. 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の活動	2
(1) 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の役割	2
(2) 事業経過報告	2
III. 福井県内の活動組織	3
(1) 県内活動組織一覧（概要）	3
(2) 活動組織の紹介	4
IV. 令和6年度活動事例報告	13
① 安島マリンプロジェクト（坂井市）	13
② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）	16
③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）	21
④ 米ヶ脇里海を守る会（坂井市）	26
⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）	29
⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）	32
⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）	33
⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）	37
⑨ 河野川清流保存会（南越前町）	42
⑩ 敦賀河川を守る会（敦賀市）	45
⑪ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）	53
⑫ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）	58
⑬ 世久見海士組合（若狭町）	61
⑭ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）	65
⑮ 南川ラインレスキュ一隊（小浜市）	69
⑯ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）	72
⑰ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）	76

I. はじめに

平成 13 年に制定された水産基本法第 32 条において、漁村の有する水産業及び水産物の供給の機能以外の多面にわたる機能が、将来にわたって適切かつ十分に発揮されるようするために、必要な施策を講じると明記され、水産のもつ多面的機能について、初めて言及されました。また、平成 30 年に改訂された漁業法においても水産の有する多面的機能について、初めて記載されました。

水産多面的機能発揮対策は、水産業及び漁村の持つ多面的機能を将来にわたって適切かつ十分に発揮されるようにするため、漁業者や地域住民が行う効果的・効率的な多面的機能の発揮に資する活動を国、県および地元市町が一体的に支援する施策です。

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会は、福井県内で水産多面的機能発揮対策に取り組む活動組織に対して必要な資金を交付するほか、活動組織に対する指導を行うなど、水産多面的機能発揮対策を円滑に推進するための活動に取り組んでいます。

この報告書では、令和 6 年度に活動に取り組んだ県内 9 市町の 17 活動組織による取組内容について報告します。

令和 7 年 3 月 5 日

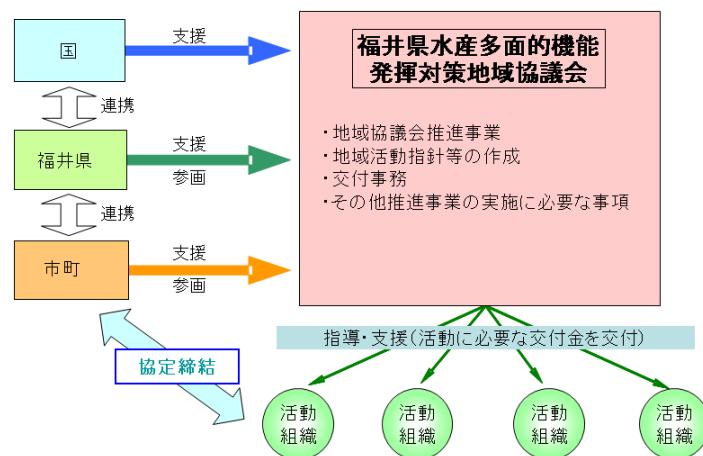
II. 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の活動

(1) 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の役割

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会（以下、地域協議会）は、水産庁の交付金事業である「水産多面的機能発揮対策」を円滑に推進するため、福井県内で水産多面的機能発揮対策の活動に取り組む活動組織に対して必要な資金を交付するほか、活動組織に対して指導を行い、効果的な事業の実施に努めています。福井県内では、令和6年度には、

17の活動組織で漁業者と地域住民等が一体となって活動を進めています。

地域協議会では、事業を実施するにあたって、水産試験場等の専門機関による助言、指導が得られる体制を整備し、漁業者と地域住民等が一体なった保全活動を推進し、地域コミュニティの維持・発展による漁村地域の活性化が図られるようにしています



(2) 事業経過報告

年月日	内 容
令和6年5月30日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第23回通常総会
令和6年11月5日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第1回臨時総会
令和7年3月24日 (予定)	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第24回通常総会

(R6. 4. 1～R7. 3. 31)

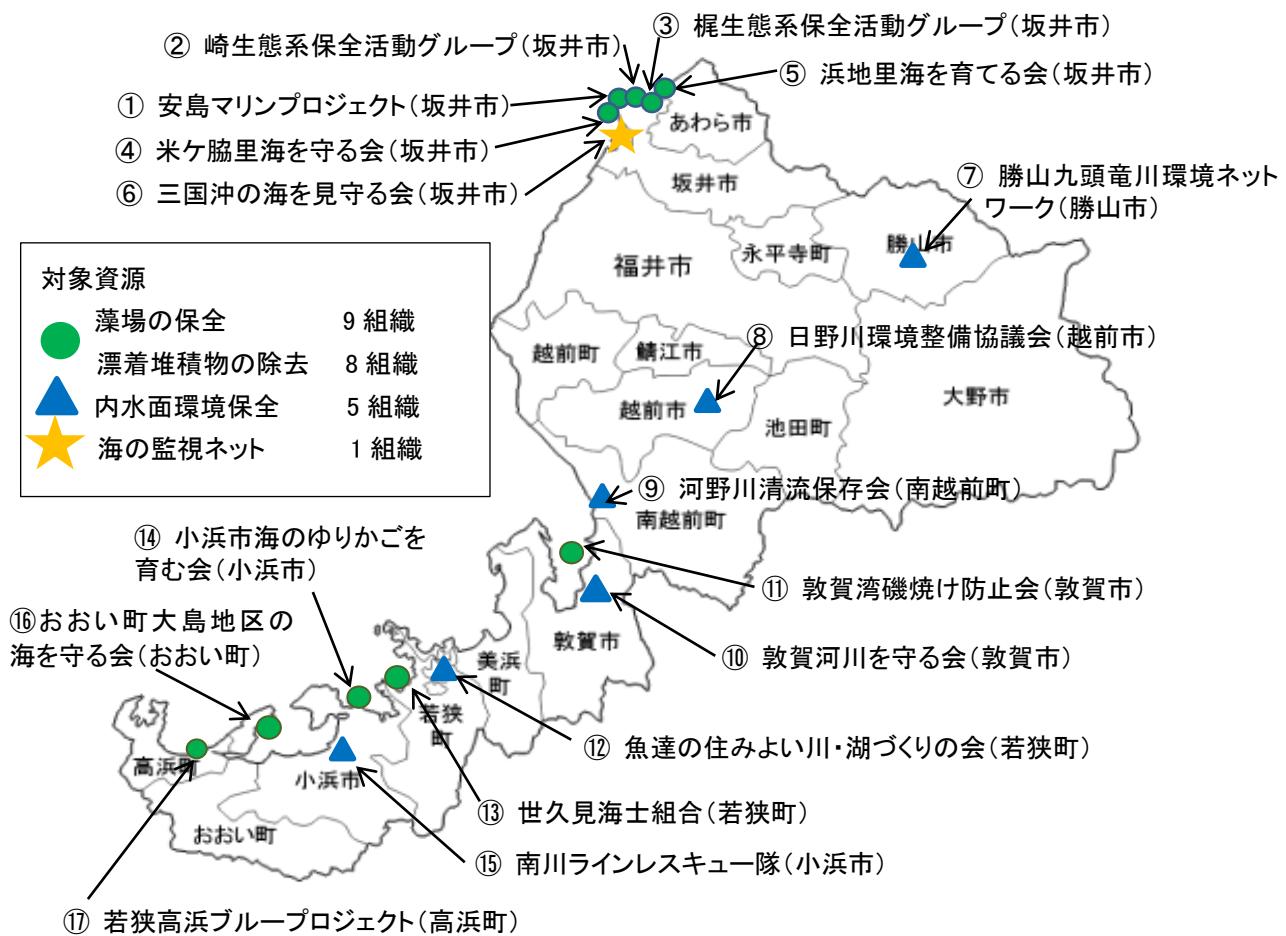
III. 福井県内の活動組織

(1) 県内の活動組織一覧

福井県内では、令和6年度に17の活動組織が保全活動に取り組んでいます。

① 安島マリンプロジェクト（坂井市）	② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）
③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）	④ 米ヶ脇里海を守る会（坂井市）
⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）	⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）
⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）	⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）
⑨ 河野川清流保存会（南越前町）	⑩ 敦賀河川を守る会（敦賀市）
⑪ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）	⑫ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）
⑬ 世久見海士組合（若狭町）	⑭ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）
⑮ 南川ラインレスキー隊（小浜市）	⑯ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）
⑰ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）	

令和6年度 水産多面的機能発揮対策活動実施状況（概要）



(2) 活動組織の紹介

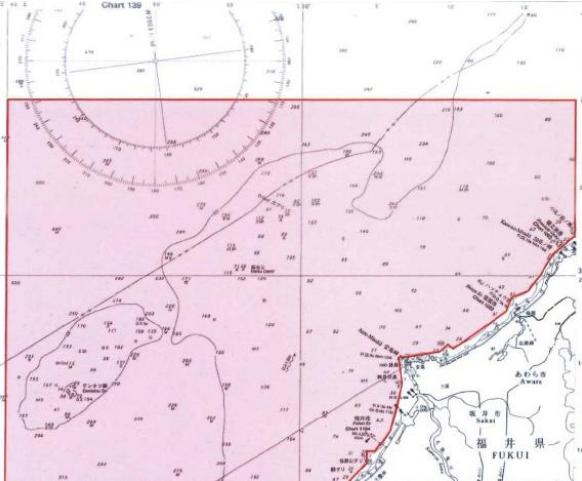
活動組織名	安島マリンプロジェクト	代表者	下影 務	協定市町	坂井市
発足年月日	平成 22 年 4 月 9 日	構成員	漁業者 34 名、漁業者以外 350 名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全		海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理		
活動内容	食害生物の除去、岩盤清掃 流域における植林・下草刈り、浮遊堆積物除去、岩起こし（特認事業） モニタリング、教育学習		漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物処理 モニタリング、教育学習		
実施場所					

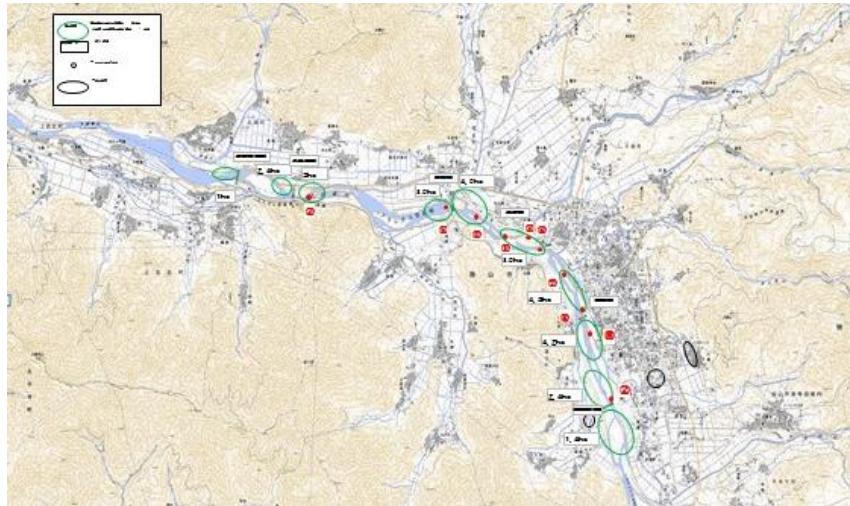
活動組織名	崎生態系保全活動グループ	代表者	山野 善信	協定市町	坂井市
発足年月日	平成 22 年 3 月 5 日	構成員	漁業者 17 名、漁業者以外 101 名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全		海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理		
活動内容	食害生物の除去、岩盤清掃、流域における植林・下草刈り、岩起こし（特認活動）、 モニタリング、教育学習		漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物処理 モニタリング、教育学習		
実施場所					

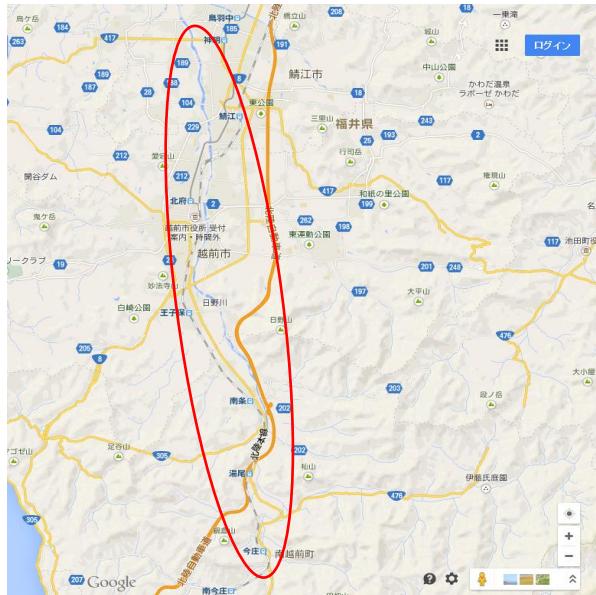
活動組織名	梶生態系保全活動グループ	代表者	出嶋 昇	協定市町	坂井市
発足年月日	平成 22 年 2 月 27 日	構成員	漁業者 11 名、漁業者以外 139 名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全		海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理		
活動内容	食害生物の除去、岩盤清掃 流域における植林・下草刈り、浮遊堆積物除去、岩起こし（特認事業） モニタリング、教育学習			漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物処理 モニタリング、教育学習	
実施場所					

活動組織名	米ヶ脇里海を守る会	代表者	倉谷 政行	協定市町	坂井市
発足年月日	平成 22 年 3 月 7 日	構成員	漁業者 22 名、漁業者以外 253 名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全			海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理	
活動内容	食害生物の除去、岩盤清掃、浮遊堆積物除去、岩起こし（特認事業） モニタリング			漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物処理 モニタリング	
実施場所					

活動組織名	浜地里海を育てる会	代表者	内川 保	協定市町	坂井市
発足年月日	平成 25 年 7 月 29 日	構成員	漁業者 11 名、漁業者以外 54 名		
対象資源	二枚貝				
活動項目	海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理				
活動内容	漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物処理 モニタリング、教育学習				
実施場所					

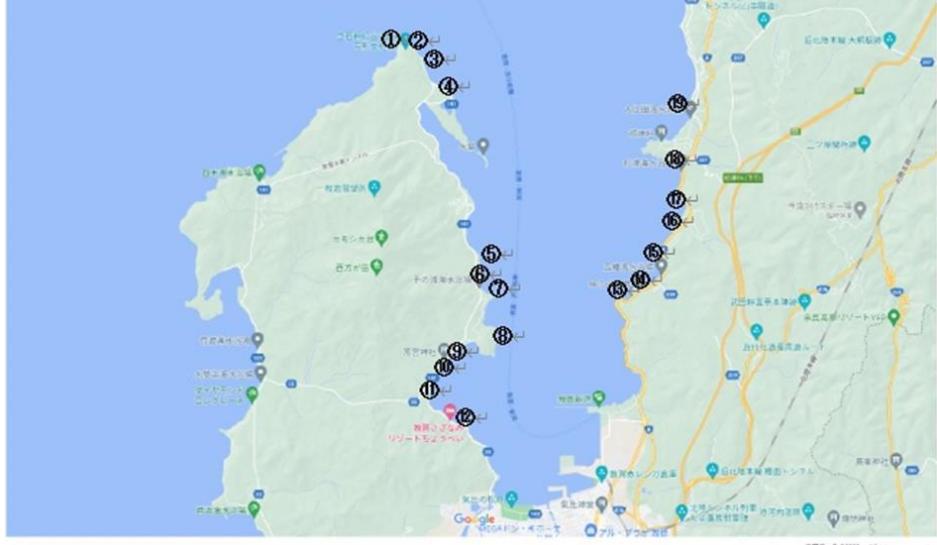
活動組織名	三国沖の海を見守る会	代表者	山本 紀彦	協定市町	坂井市
発足年月日	平成 31 年 1 月 31 日	構成員	漁業者 20 名、漁業者以外 1 名		
対象資源	-				
活動項目	海の監視ネットワーク強化				
活動内容	監視ネットワーク強化のための海上監視・情報収集				
実施場所					

活動組織名	勝山九頭龍川環境ネットワーク	代表者	木下 清治	協定市町	勝山市
発足年月日	平成 22 年 7 月 15 日	構成員	漁業者 108 名、漁業者以外 12 名		
対象資源	アユ等魚類				
活動項目	内水面の生態系の維持・保全・改善				
活動内容	河川清掃 モニタリング、教育学習				
実施場所					

活動組織名	日野川環境整備協議会	代表者	宮本 俊	協定市町	越前市
発足年月日	平成 25 年 7 月 26 日	構成員	漁業者 119 名、漁業者以外 242 名		
対象資源	アユ等魚類				
活動項目	内水面の生態系の維持・保全・改善				
活動内容	河川清掃 モニタリング				
実施場所					

活動組織名	河野川清流保存会	代表者	酒井 享	協定市町	南越前町
発足年月日	令和 6 年 2 月 22 日	構成員	漁業者 28 名、漁業者以外 47 名		
対象資源	アユ等魚類				
活動項目	内水面の生態系の維持・保全・改善				
活動内容	河川清掃、モニタリング、教育学習				
実施場所					

活動組織名	敦賀河川を守る会	代表者	谷本 勝美	協定市町	敦賀市
発足年月日	平成 25 年 7 月 30 日	構成員	漁業者 13 名、漁業者以外 7 名		
対象資源	アユ等魚類、底生生物				
活動項目	内水面の生態系の維持・保全・改善	左記の活動の効果促進に資する活動			
活動内容	河川清掃 モニタリング	河床耕うん 教育学習			
実施場所					

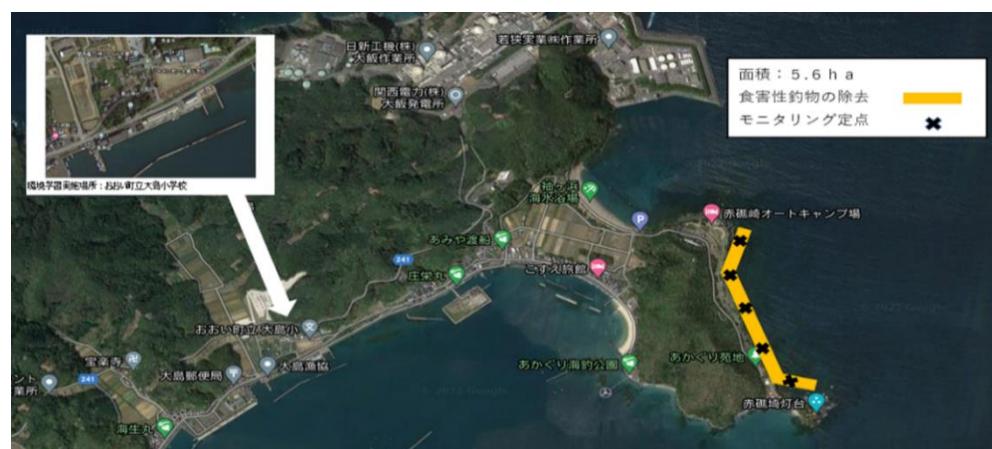
活動組織名	敦賀湾磯焼け防止会	代表者	山本 宗治	協定市町	敦賀市
発足年月日	令和4年12月1日	構成員	漁業者 171名、漁業者以外 8名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全				
活動内容	食害生物の除去、海藻の種苗投入 モニタリング、教育学習				
実施場所					

活動組織名	魚達の住みよい川・湖づくりの会	代表者	田辺 喜代春	協定市町	若狭町
発足年月日	平成25年7月30日	構成員	漁業者 27名、漁業者以外 29名		
対象資源	コイ、フナ				
活動項目	内水面の生態系の維持・保全・改善				
活動内容	湖岸漂着物の除去、湖上・湖周辺清掃 モニタリング				
実施場所		 <p>湖岸清掃の範囲 三方湖周囲9.2km × 湖岸から0.01km (10m) の範囲 = 0.092km² 約9ha モニタリング: 1ha</p>			

活動組織名	世久見海土組合	代表者	藤原 雅司	協定市町	若狭町
発足年月日	令和5年3月1日	構成員	漁業者21名、漁業者以外1名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全		海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理		
活動内容	食害生物の除去、母藻の設置、海藻魚礁の設置 モニタリング			漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物処理 モニタリング、教育学習	
実施場所	 <p>藻場の保全 4.0ha ■ : 活動区域 200m × 50m 1.0ha 4か所</p>			 <p>海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理 1.0ha ✖ : モニタリング定点 5か所</p>	

活動組織名	小浜市海のゆりかごを育む会	代表者	山下 雅司	協定市町	小浜市
発足年月日	平成29年3月1日	構成員	漁業者274名、漁業者以外127名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全			海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理	
活動内容	母藻の設置、アマモの移植・播種 ウニの密度管理 モニタリング、教育学習			漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物処理 モニタリング、教育学習	
実施場所					

活動組織名	南川ラインレスキュー隊	代表者	辻井 裕二	協定市町	小浜市
発足年月日	平成 22 年 4 月 9 日	構成員	漁業者 15 名、漁業者以外 85 名		
対象資源	内水面魚類				
活動項目	ヨシ帶の保全		内水面の生態系の維持・保全・改善		
活動内容	ヨシ帶の刈り取り・間引き、草刈り・浮遊堆積物の除去 モニタリング、教育学習		河川清掃 モニタリング、教育学習		
実施場所					

活動組織名	おおい町大島地区の海を守る会	代表者	小西 昌弘	協定市町	おおい町
発足年月日	令和 4 年 2 月 25 日	構成員	漁業者 60 名、漁業者以外 12 名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全				
活動内容	食害生物の除去 モニタリング、教育学習				
実施場所					

活動組織名	若狭高浜 ブループロジェクト	代表者	大黒 芳信	協定市町	高浜町
発足年月日	令和2年2月10日	構成員	漁業者161名、漁業者以外4名		
対象資源	藻場				
活動項目	藻場の保全		廃棄物の利活用		
活動内容	食害生物の除去、母藻の設置 モニタリング		廃棄物の有効利用		
実施場所	<p>実施年度：令和3年、令和5年、令和7年 実施面積：4ha</p> <p>【ST1】 若宮 約0.4ha</p> <p>【ST2】 海釣り桟橋 約2.4ha</p> <p>【ST3】 城山 約1.2ha</p> <p>○ 活動範囲 ○ モニタリング位置</p>				

IV 令和6年度活動事例報告

① 安島マリンプロジェクト（坂井市）

1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約 20,000 人の都市である。安島マリンプロジェクトがある安島地区は人口約 850 人で、地域の主要な産業は漁業である。

地区には景勝地として有名な東尋坊があり、毎年多くの観光客が訪れている。

平成 9 年 1 月 7 日、ロシアタンカ一船ナホトカ号の船首部分が座礁接岸した地区もある。

2. 漁業の概要

安島マリンプロジェクトの主な構成員は、地元安島区民と雄島漁業協同組合安島支所に所属している漁業者である。雄島漁業協同組合安島支所の主要な漁業は浅海漁業であり、主な漁獲対象魚種は、越前ウニ、ワカメ、サザエ、アワビ、アマダイ、アジ、ヒラメ等である。

近年、漁師も海女も高年齢化が進み、後継者不足が専らの問題である。しかし、まだ少人数だが数年前から新人海女たちが積極的に活躍をし始めたことで、幅広い年代の交流をすることにより、これまでの変わらない活動を継続することや新しい目線からの発想などで、この先継続して豊かな海を守っていくことを期待している。

3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日発足

(活動としては平成 22 年 4 月 9 日発足の環境生態系保全事業から継続して 12 年目となる)

(2) 構成員の数と形態

構成員 384 名（内訳：漁業者 34 名、漁業者以外 350 名）

(3) 活動延べ人数

372 人

(4) 対象地域での活動歴

当地区は東尋坊や雄島のある観光地でもあるため、区民総出の海岸清掃を年 2 回（春・秋）30 年以上前から実施している。また、環境生態系保全活動として平成 22 年度から区が主体となって活動を始め、平成 25 年度から水産多面的機能対策支援事業に活動を切替えて継続して実施している。

4. 活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

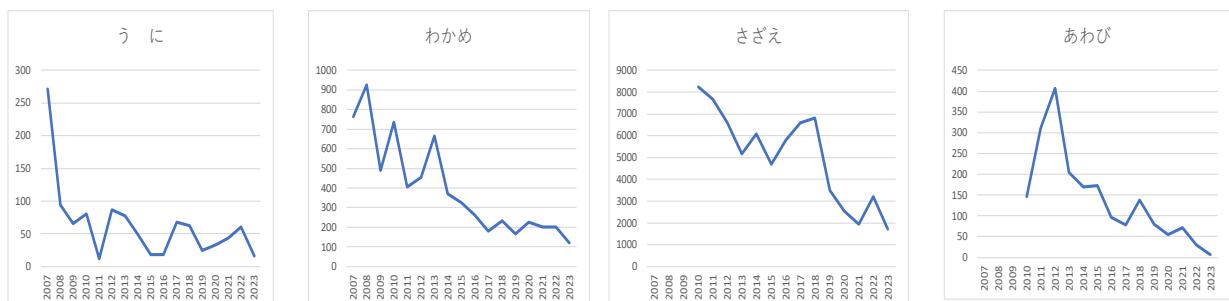
(1) 活動場所



(2) 資源の課題

昨年に引き続き温暖化の影響か今年も例年に比べ水温が高く、磯焼け現象が起き、岩のりの生育が悪く不作であった。それが原因か海藻の生え方もよくないため、エサ不足でウニやサザエ、アワビなどの収穫量が激減した。

これまでの収穫高（収穫量kg）は次のとおり。



5. 活動の実施状況

実施年月日	活動内容	参加人数
R6. 4. 18	あか藻刈り作業	22
R6. 5. 31	小学生わかめ干し体験	33
R6. 6. 14	流域における下草刈り作業	27
R6. 9. 7	海岸清掃作業	182
R6. 9. 9	岩おこし作業	13
R6. 9. 10	岩おこし作業	14
R6. 10. 11	流域における下草刈り作業	23
R6. 10. 27	ヒトデ駆除作業	22
R6. 10. 28	ヒトデ駆除作業	22
R6. 10. 31	岩盤清掃	12
R6. 11. 10	モニタリング作業	1
R6. 11. 11	モニタリング作業	1



ヒトデ駆除の様子



海中の石を手作業で返す様子

6. 今後の課題と計画

漁業者の人数の減少傾向が続き、海中作業ができる人が減ったため、作業が思うほどはかどらずに時間がかかり負担となっている。

これから先も一気に人が増えるとは考えにくいので、作業の場所や範囲を細かく指定して回数を増やすなどして負担軽減できるような対策を取っていくように心掛けたい。



流域における下草刈り作業



わかめ干し体験をする子供たち



海岸清掃の様子



あか藻刈り作業の様子

② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）

1. 漁業の概要

崎生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属しており、主要な漁業は海女による浅海漁業が中心であり、主な漁獲対象魚種は、ウニ、サザエ、アワビ、ワカメ、岩のり、天草等で年間を通じて藻場の恩恵を受けている。ウニは高級珍味の「塩うに」となり、ワカメは「もみわかめ」として、名産品として販売されている。

2. 活動組織の運営

(1) 環境・生態系保全対策活動組織の発足年月日

平成 22 年 3 月 5 日 設立総会

(2) 水産多面的機能發揮対策活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日

(3) 構成員の数と形態

構成員 118 名（内訳：漁業者 17 名、漁業者以外 101 名）

(4) 活動延べ人数

平成 23 年度	704 人	平成 24 年度	645 人
平成 25 年度	412 人	平成 26 年度	582 人
平成 27 年度	574 人	平成 28 年度	521 人
平成 29 年度	543 人	平成 30 年度	541 人
平成 31 年度	499 人	令和 2 年度	369 人
令和 3 年度	347 人	令和 4 年度	351 人
令和 5 年度	306 人	令和 6 年度	264 人

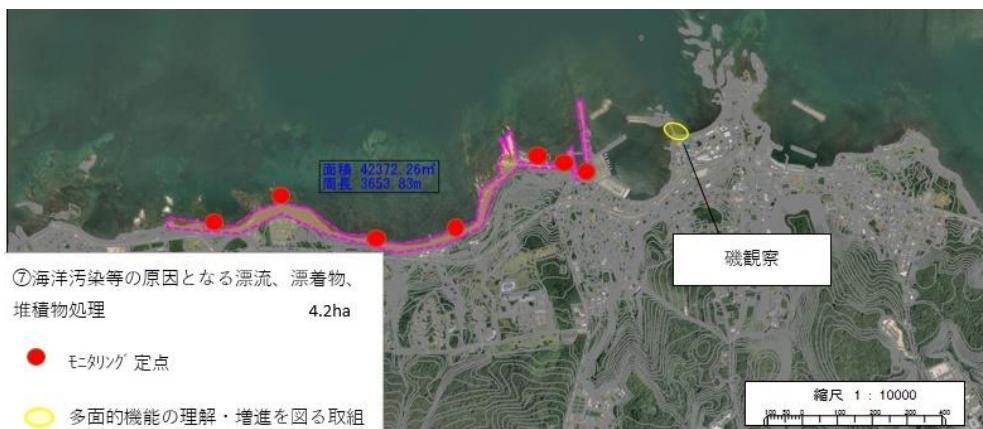
(5) 対象地域での保全活動歴

崎地区では、平成 22 年度から「崎生態系保全活動グループ」が主体となって、保全活動の計画づくり、モニタリング、及び藻場の岩盤清掃、浮遊・堆積物の除去、流域の植林活動等を実施してきた。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動位置（崎地先藻場、面積：4. 2ha）





4. 活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R6. 4. 1～ R7. 2. 28	モニタリング	状況の確認 (コドラート法)	4名	4回実施
R6. 4. 1～ R7. 2. 28	保全活動	有害生物の除去	16名	2回実施
R6. 9. 20	保全活動	海底耕うん、岩おこし	5名	1回実施
R6. 10. 18	保全活動	岩盤清掃 (のり畑清掃)	9名	1回実施
R6. 4. 1～ R7. 2. 28	海洋汚染等の原因 となる 漂流、漂着物、堆積 物処理	漁業者等が行う砂浜、海 底、沖等の廃棄物等処理 (海岸・渚帶の清掃)	125名	2回実施
R6. 7. 12	保全活動	教育と啓発の機会の 提供 (磯観察)	40名	1回実施
R6. 4. 1～ R7. 2. 28	保全活動	流域の植林 (流域の下草刈り)	65名	2回実施

延活動人員 264名

(2) 活動内容写真

「教育と学習の機会 磯観察会」

(越前松島水族館様のご協力)

(活動中の小学生)



「モニタリング」

(海藻等の定点モニタリング)



(海藻等の定点モニタリング)



「有害生物の除去」



「海底耕うん・岩おこし」



「岩盤清掃」

(のり畑清掃中)



(のり畑清掃中)



「漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理」

海岸清掃・ごみ拾い

(清掃前の状況)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(活動参加者)



「流域の植林」

(下草刈り活動中)



(活動中)



(3) 広報活動

「水産多面的機能発揮対策」において、海の現状、藻場の大切さ、海の環境等を知つてもらうため、各活動前では回覧版等による広報活動を行い、地区住民には小学生以上の全員参加を呼びかけた交流活動で情報発信をすることが出来た。

(4) 活動内容の特色

雄島小学校の皆様にも協力していただき、松島水族館前の海岸で「磯観察」活動を毎年実施していたがコロナ禍で中断していた。しかし、一昨年来、再開することができ、小学校からも喜ばれ、大変嬉しく思っている。

(5) 効果

「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場の環境は活動前と比較すると随分と向上し、ウニ、サザエ等が育成しやすい環境となってきている（但し、上記生物の生育は、海中の水温に影響されやすい傾向にある。）。

効果については、浅海漁業の漁獲量で増加した物もあれば、減少した物もあり、若干増加の傾向にあり、活動効果が出ているものと思われる。

5. 今後の課題と計画

地域住民の共有財産である藻場においては、今後も環境保全の維持管理に努め、「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、交流の場を広めていくとともに、「教育と啓発の機会の提供」活動も継続して実施していく。

③ 梶生態系保全活動グループ (坂井市)

1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約2万人の町である。当グループがある地区は、東は浜地地区との境界である今津川付近から、西は崎地区との境界である越前松島水族館付近までが活動場所である。当地区は幹線道路から海岸線へ延びる道路が狭い場所や、海岸と道路の間が険しい崖となっている場所が多い。また、同地区には諸外国から海防のため築いた砲台である国指定史跡の丸岡藩砲台跡や火山活動で形成され、隆起と海食で現れた国指定名勝天然記念物の越前松島海岸のある場所に位置する。

2. 漁業の概要

梶生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属している梶支所の組合員を中心に梶区住民全員である。組合員の主要な漁業は魚の一本釣りで、主な漁獲対象魚類はタイ・ハマチ・アジ・ヒラメ等である。海女は素潜りで主な漁獲対象物は、ワカメ・ウニ・サザエ・アワビ・岩ノリ等がある。

組合員は40歳代の海女から80歳代の漁師がいるが、組合員の7割近くは70歳を超えており、高齢化による組合員の減少も著しい。現構成員で藻場の保全活動を継続しながら、当地区から新規就業者や若手組合員を育成する体制づくりを求めている。

3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成22年2月27日 活動14年目

(2) 構成員の数と形態

構成員150名(内訳:漁業者11名、漁業者以外139名)

(3) 活動延べ人数

平成23年度	623人	平成24年度	489人	平成25年度	422人
平成26年度	494人	平成27年度	607人	平成28年度	611人
平成29年度	466人	平成30年度	422人	平成31年度	502人
令和2年度	420人	令和3年度	393人	令和4年度	398人
令和5年度	283人	令和6年度	288人		

(4) 対象地域での活動歴

梶地区では、平成22年度から区民総出の漂着ゴミの回収を中心とした海岸清掃・流域海岸の下草刈り、漁業組合員主体の特認作業の岩起こしや有害生物の除去などの海中清掃、海苔畑の岩盤清掃を実施している。

海を知らない地元子供に対し海と漁村への親近感を感じてもらうため、毎年行う釣り体験や魚料理体験を今回は子供の参加数減少により実施せず、今後の啓蒙活動を継続的に行うこととが危惧される。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所



⑦海洋汚染等の原因となる漂流、
漂着物、堆積物処理 2.2ha



①藻場の保全 4.2ha

(2) 対象資源の現状

当地区海岸は大規模な磯焼けなどは発生しておらず、海女による素潜りでの漁獲量は横ばいか微増で、活動を通じ現状の藻場を維持していることは認識できるが、「岩起こし」活動が困難な区域は漂砂を起こしている海岸も少なくない。詳しい漁獲量を確認できないが一人当たりの漁獲量は微増で組合員減少による総漁獲量は長期的観測では減少しているのは確かである、また、地元のウニ、ワカメ小売店でも予約販売量を仕入れるのが精一杯のことである。

(3) 課題

漁業協同組合員の高齢化に伴う会員の減少は漁業壊滅につながる恐れがあり、次世代の若者は漁業への魅力が少なく関心が薄いのも事実である。当活動による良漁場の回復で水産資源の確保と、啓蒙活動や体験教室など次世代の担い手の育成を行うことが必須である。

令和7年1月現在会員数

年齢別組合員	30代	40代	50代	60代	70代	80代
海女	0人	1人	1人	1人	2人	0人
漁師	0人	0人	0人	0人	5人	1人

現在、海女5名、漁師6名の会員があり、重労働である海女活動や漁師活動において高齢を理由に組合を脱退する者や、持病により軽作業は行うが今まで通りの漁業を行う事のできない会員などもいる。伝馬船を所有している者に組合員加入の勧誘を行うが、漁業事態が趣味の範囲程度であり組合員加入を拒否しているなど、魅力ある組合作りが必要である。

5. 活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

今年度は下草刈・海岸清掃・海中清掃などの活動を行った。海洋汚染等の原因となる漂流・漂着物・堆積物の処理活動では、活動地域が落石・倒木等で危険な状態であること、漂流・漂着物の搬送する道路（遊歩道）もかなり危険な状況となっていることから事故には十分注意を

払いながら活動を行った。啓蒙活動である子供会への体験学習は子供の急激な減少により植林のみの活動となつた。

実施日	活動区分	活動内容	参加者	備考
R6. 4. 14	藻場の保全	浮遊物・堆積物の処理	59名	構成員
R6. 4. 26~28	藻場の保全	植林・植林場所の整理	9名	子供会父兄・梶区役員
R6. 4. 27~29	藻場の保全	浮遊物・堆積物の処理	23名	構成員
R6. 6. 9. 30	藻場の保全	海岸の下草刈り	7名	組合員
R6. 7. 7	藻場の保全	海岸の下草刈り	71名	構成員
R6. 7. 13	藻場の保全	モニタリング	1名	組合員
R6. 8. 22~23	藻場の保全	岩起こし(特認作業)	22名	組合員
R6. 9. 23	藻場の保全	浮遊物・堆積物の処理	38名	構成員
R6. 10. 6	藻場の保全	海岸の下草刈	10名	組合員
R6. 10. 14	藻場の保全	浮遊物・堆積物の処理	37名	構成員
R6. 10. 14	藻場の保全	海岸の下草刈	6名	組合員
R6. 10. 22	藻場の保全	海苔畠清掃	5名	組合員

(2) 活動の内容、効果等

海岸清掃・岩盤清掃・海中清掃により、良好な漁場を確保し、ウニ・海苔・わかめ・さざえ・あわび等の成育を良好にする。

水域の保全（海岸清掃）



海苔畠の清掃（岩盤清掃）



藻場の保全（岩起こし）



海岸清掃活動：漂着物の回収を中心とした海岸清掃



流域における植林及び下草刈：海岸の下草刈



海中清掃活動：漁場育成



岩盤清掃活動・海苔畑清掃：岩海苔の漁場育成



教育・学習活動：植林活動



植林体験・釣体験・料理体験などは子供の行事・習い事等と重なり価値観の多様化と子供の減少は当該活動を優先させることはないものの、小学校で体験できるものではなく、実施に積極的な父兄が多い。また、植林学習終了後、子供にアンケートを実施したところ「植林の必要性の理解」などの意見が多くあった。

子供への体験学習は地区単位ではなく、地域単位、学校単位での実施も検討するべきかもしれない。

(3) モニタリングの様子



前回実施場所でホンダワラ刈を行った海岸3ヶ所、行っていない海岸3ヶ所を対象に水深約1m～2mに同じ面積中に海産物等の生息状況や海藻の生息状況のモニタリングを行った。前回同様ホンダワラが大量発生しなかったことと積極的に間引きをしたことで生育状況は前回より良かった。ホンダワラの間引きの効果は生育状況を左右することが確認している。

(4) 効果について（海女さんへの聞き取り）

○わかめの漁獲に対する活動の効果について

漁獲量は前回と微増であり活動効果は専門家の判断でも多少影響があると判断されており、今後も活動を続けて効果を見てはどうか。

○ウニの漁獲に対する活動の効果について

漁獲量は前回と同じくらいであるが、長期的観測では減少傾向で活動効果の影響は分からぬが、多少はあるだろう。

○岩海苔の漁獲に対する活動の効果について

需要も少なく積極的な漁獲に取組む海女は少ないが、贈り物や昔からの海の味として好む人も少なくない、漁獲量は少ないと継続的に保全活動を行う。

6. 今後の課題と計画

当グループは県の水産多目的機能発揮対策事業の一環として、役員で活動計画を立案し地域住民の理解を増進し課題点を明確にして活動を行ってきた。

活動における区民の認知度は高く積極的参加は確実にあるが、区民の高齢化および組合員減少で活動参加人員は確実に減少しており、長時間活動でカバーするも熱中症などの事故の懸念もあり現行以上の活動は慎重になる。

長期的観測で海産物の減少は明確であり、当グループの漁場育成の抜本的な改善は限界を感じているが、現活動は藻場の保全に対し多少貢献できていることは専門家とのヒアリングで確認できている。

今後も継続的な活動を行っていきたいが下記の様々な課題がある。

- (1) 区民の高齢化および組合員減少で活動参加人員の減少。
- (2) 気候変動（温暖化など）による長時間活動の制限。
- (3) 子供の減少による啓蒙活動（体験学習など）の地区単位の活動。

しかし、現状行っている海岸清掃・沿岸清掃・海中清掃等は漁場育成に多少影響しており、活動は積極的に行っていきたい。また、専門家とのヒアリングを代表者、事務局だけでなく組合員全員と行えば今後の効果が出てくると思われる。

子供の頃から当グループの活動に参加していた地元学生が県立大学海洋生物資源学部に進学したことを聞いて、当グループの活動が多少影響したのかを感じた。

④ 米ヶ脇里海を守る会

1. 地域の概要

坂井市三国町は、福井県の北部海岸沿いに位置し、人口が約2万2千人の町である。米ヶ脇里海を守る会がある米ヶ脇地区には世帯数約240世帯、700人あまりが居住している。また地区には年間100万人を超す観光客が訪れる奇勝・東尋坊があるほか、九頭竜川河口に遠浅で安全な海水浴場や、きれいな夕日の沈む海岸線でも知られている。



2. 漁業の概要

米ヶ脇里海を守る会の主な構成員は、雄島漁業協同組合米ヶ脇支所に所属している。雄島漁業協同組合米ヶ脇支所の主要な漁業は海女漁であり、冬の岩のり採りに始まり初春のスガモ採り、初夏のワカメ、ウニ、サザエ、アワビなどが水揚げされている。それらの海産物が地元民宿・旅館の需要を満たすほか、昔からウニ・ワカメなど三国の高級食材として珍重されている。



3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 22 年 3 月 7 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 275 名（内訳：漁業者 22 名、漁業者以外 253 名）

(3) 活動延べ人数

活動延べ人数 123 名

(4) 対象地域での保全活動歴

米ヶ脇地区では、平成 22 年度から米ヶ脇里海を守る会が主体となって地先藻場（里海エリア）を対象に環境・生態系保全活動を実施。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状と課題

(1) 活動場所：三国ヨットハーバーから東尋坊までの地先磯および海岸一体

(2) 現状

平成 22 年度から令和 5 年度まで生態系保全事業によって実施してきた、スゲ採り、ヒトデ捕、浅瀬の砂取りや岩起こし及び森作りのための下草刈り作業を、地先全域で行ったことにより、ウニ・アワビ・サザエなどの貝類やワカメ・天草・岩ノリ・スガモなどの海藻類の繁殖にも徐々にではあるが以前と比べ成果を挙げてきている。

また、米ヶ脇活崎「若えびす裏」の県による砂の回収作業では、砂の堆積を、岩盤が見えるほどに激減させ、平成 26 年 4 月当初、海岸線が以前の砂場から一部岩盤がむき出し、浅瀬ではアオサが一面に繁茂している状態にまでなってきた。さらに、その海岸におけるモニタリングの実施により、砂の堆積の状態や貝類・海藻類の成長具合など過去と比較しても良好に推移している状況が掴めた。

そこで、組合活動として、これらの収穫が増産されたことにより、当組合も地域住民に海の幸を分け与えたいとの思いから、ワカメ干し体験、天草を使った「ところてん作り・試食会」と活動の場を設けたところ、参加者からの反響も良好で、組合員の結束にも一役買った感があった。さらに、28 年度は地元の高齢者の会 27 名との交流事業で地元の海岸で採取した貝類などの調理・試食の提供で食文化の伝承と身近な海のすばらしさを感じ取っていただく事業を展開してきた。

(3) 課題

①モニタリングの継続

米ヶ脇活崎「若えびす裏」のモニタリングでは、陸及び海中からの写真撮影や 8 箇所に埋め込んだ砂堆積の計測機器により海の状況を適切にデータの把握を継続中であるが、さらに 28 年度はモニタリング箇所を 4 箇所増やし、砂の堆積やその周りの生き物の調査を継続として行った。29 年度も活崎での 8 箇所のモニタリング点において、水際から 5~6m の所（砂撤去により岩石が出てきた場所）を調べたら、トコブシ・ガンボ・黒ウニ・バフンウニ・ヒトデを写真に撮ることができた。天草も 8 点の内、前回は 3 箇所ぐらいしかなかったが、今回は 7 箇所で見られ、5 年間のモニタリングで砂撤去により回復したことが分かり、これからも海中のモニタリングを継続したい。

②砂撒去作業

米ヶ脇地先「波瀬海岸」にて、砂撒去作業を人海戦術で行った。一面砂原であったが、作業努力によりあちこちで岩盤が出現するようになりそれなりの効果が認められた。

③イベント事業の開催

ワカメ干し体験は地区内外からの参加者に好評を得ている。昨年組合員に加入した若手の海女の2・3年後の上達を見極めた上で、天候や海の条件などを考慮して、ワカメ干し体験を継続して実施して行きたい。

④一般事業の継続

岩起こしは、海女の体力を考え時間の短縮と回数の見直しを検討し、作業区域を小さく区分けし、回数を1回増やすことで進めた。しかしながら、海の条件が悪くなかなか計画通りには進められないことが問題。



⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）

1. 漁業の概要

浜地里海を育てる会の漁業者は雄島漁業協同組合に所属している。当地区の漁場は海岸線が砂浜のため、漁獲法は地引網や刺し網である。水揚げされる魚の種類は、コウナゴやフグ・鯛・イナダ・イカなどだが、地曳網については近年、観光用がほとんどで漁獲本来の操業は行われていない。刺し網については一定の操業が行われている。また春のシーズンには離岸堤に繁茂するワカメ漁が盛んに行われ、地区内のいたるところでワカメの天日干しの光景が見られる。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日

(2) 構成員の数と形態

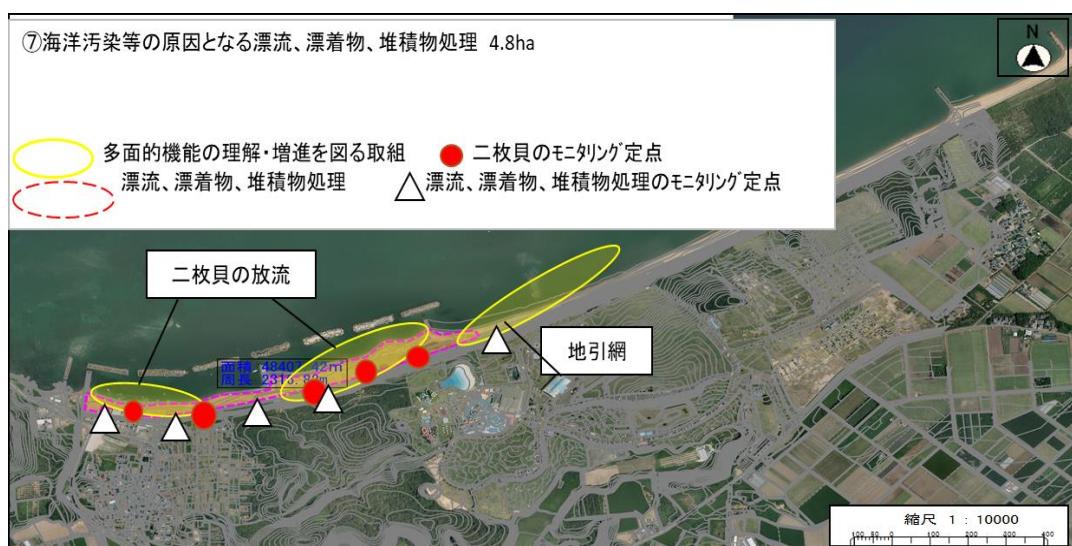
構成員 65 名（内訳：漁業者 11 名、漁業者以外 54 名）

(3) 活動延べ人数

97 名

3. 活動の対象範囲と対象資源の現状

(1) 活動場所



(2) 対象資源の現状

砂浜海岸につき、地曳網、刺し網漁中心で、ホウボウ、鯛、キス、カレイ類、サザエ、赤バイ貝などが漁獲される。この他には離岸堤付近において毎年春にはワカメの収穫が行われている。

4. 活動の実施状況

海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理海岸の清掃活動と二枚貝の放流活動を実施。地区在住構成員だけでなく、今季も福井新聞社など地元企業と協力し、清掃ボラ

ンティアが参加した取組も実施した。

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R 6. 4. 21	海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理	漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理 (海岸・渚帯の清掃)	25名	
R 6. 7~8月	活動なし	海水浴期間中のため		海開き前日に砂浜掃除施行
R 6. 7. 9 R 6. 10. 12 R 6. 11. 16 R 6. 12. 21	海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理	漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理 (海岸・渚帯の清掃)	52名	4回実施
R 7. 3(予定)	保全活動	二枚貝放流	10名	見込
R 6. 4. 1~ R 7. 3. 31	保全活動	モニタリング	10名	見込

(2) 活動内容写真



▲清掃作業、回収物



▲ボランティアによる海岸清掃活動



▲海岸清掃作業



▲鋤簾(じょれん)によるモニタリング



▲二枚貝(ハマグリ)の放流



▲当組織の構成員



▲海岸清掃作業



▲清掃作業、回収物

5. 今年度の課題

二枚貝（ハマグリ）放流を予定しているが、稚貝入手が難しく、確保に苦慮している。二枚貝の定着を願い、毎年清掃、放流を行っているが、なかなか定着が見られない。今後は、ハマグリだけでなく、アサリの放流も考えているが、稚貝が手に入らない状況である。

当活動組織で清掃作業を4月に行ったが、参加者の減少が課題として浮き彫りになった。

5～8月に海岸清掃を実施したが、各企業からボランティアの清掃作業の申し入れが6月に集中した。短期間に集中した清掃作業よりも、一定の期間ごとの清掃が望ましいと考えるが、各企業のボランティア申し入れもあり対応に苦慮している。7月、8月は海水浴場開設の為、清掃活動等を休止せざるを得ない。

9～12月にも清掃作業を行っているが、漂着物として流木、特に竹類が多くナイロン袋にての回収が困難であった。

⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）

1. 漁業の概要

三国沖の海を見守る会の主な構成員は、三国港漁業協同組合に所属している。三国港漁業協同組合の主要な漁業は一本釣りである。春はメバルやアマダイ、夏はアジやヒラマサ、秋はカワハギ、冬はフクラギやタラなどが獲れる。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 31 年 1 月 31 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 21 人(内訳：漁業者 20 人、漁業者以外 1 人)

3. 活動内容

通常の漁と併せて、不審船や環境異変の有無を確認する。また、確認記録が記載された日報の取りまとめを行う。

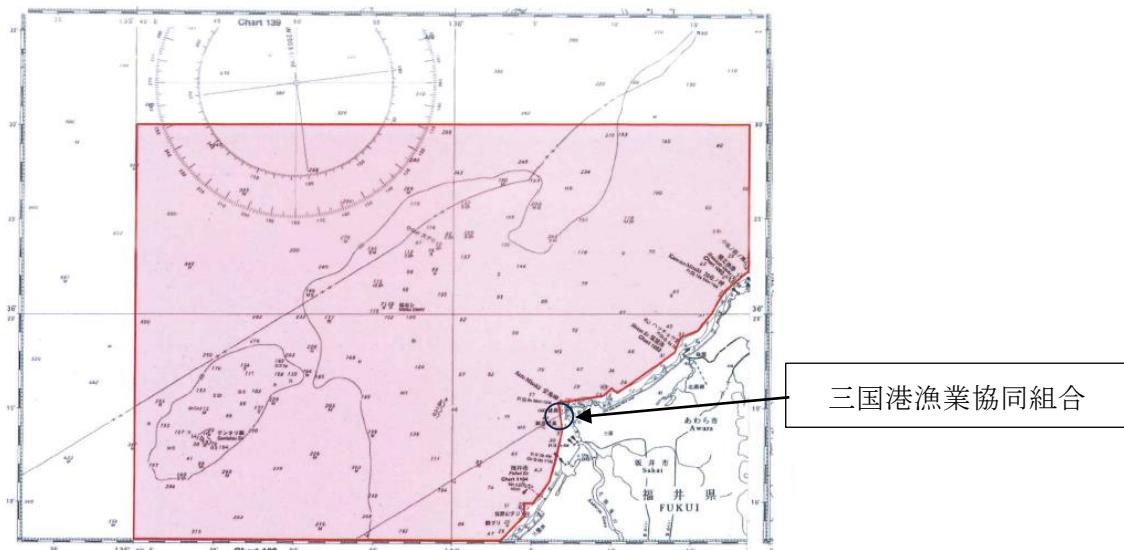
4. 活動実績（令和 7 年 9 月末まで）

第 1 四半期：監視隻数延べ 111 隻、日報の取りまとめ作業 21 日

第 2 四半期：監視隻数延べ 87 隻、日報の取りまとめ作業 23 日

合 計：監視隻数延べ 198 隻、日報の取りまとめ作業 44 日

5. 活動場所



⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）

1. 組織の概要

勝山九頭竜川環境ネットワークは、勝山市を流れる九頭竜川の地域資源の維持・回復を図るために、環境保全、水性生物の保護・増殖等を目的とし、勝山市漁業協同組合を中心に地域のふるさとづくり、まちづくり協議会、勝山青年会議所等の団体を構成員として発足した。

（1）活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 15 日

（2）構成員の数と形態

構成員 120 名（内訳：漁業者 108 名、漁業者以外 12 名）

《構成員》

勝山市漁業協同組合、荒土町ふるさとづくり推進協議会、鹿谷町まちづくり協議会、NPO 法人まちづくりのむきの会、旭毛屋区育成会、勝山青年会議所、福井県立大学 海洋生物資源学部、サクラマスレストレーション

2. 活動の実施状況

九頭竜川流域の河川敷き清掃と草刈りの実施、また、子供たちを対象に、川をきれいにすることや、川に生息する水生生物の保護の大切さを知っていただくための出前講座を行った。

（1）本年度の実施状況

活動日	活動区分	活動内容	人数	備 考
4月 21 日	保全活動	河川敷清掃	60	清掃区域は、漁協管轄区域の勝山南大橋、勝山橋、恐竜橋、発坂事務所前、小舟渡橋の 5 か所周辺における粗大ゴミ、不燃ゴミの回収
7月 28 日	保全活動	河川敷清掃	53	
9月 1 日	保全活動	河川敷清掃	48	
6月 6 日	保全活動	河川敷草刈	17	草刈り場所は、主に漁協管轄の九頭竜川、滝波川沿い堤防及び河川敷の道、駐車場を対象に実施。
6月 7 日	保全活動	河川敷草刈	14	
6月 8 日	保全活動	河川敷草刈	12	
6月 10 日	保全活動	河川敷草刈	10	
6月 11 日	保全活動	河川敷草刈	4	
6月 12 日	保全活動	河川敷草刈	2	
6月 13 日	保全活動	河川敷草刈	2	
6月 14 日	保全活動	河川敷草刈	3	
6月 19 日	保全活動	河川敷草刈	3	
6月 22 日	保全活動	河川敷草刈	3	
5月 17 日	啓蒙活動	鮎の放流体験 (放流前に鮎の説明)	8	場所は、恐竜橋下の九頭竜川浅瀬 参加者：鹿谷保育園 25 名と南こども園 14 名
5月 22 日	啓蒙活動	鮎の放流体験 (放流前に鮎の説明)	9	場所は、恐竜橋下の九頭竜川浅瀬 参加者：ケイテ一こども園 39 名
6月 3 日	啓蒙活動	鮎放流体験 (放流前に鮎の説明)	12	場所は、恐竜橋下の九頭竜川浅瀬 参加者：荒土小学校 1 年生 34 名 テーマ「九頭竜川の鮎の一生」

7月 20 日	啓蒙活動	説明) 座学 鮎の掴み取り体験 鮎料理教室	1 3 3	場所は、昭和町1丁目ふれあい会館 参加者：昭和町1丁目子供育成会 41名
6月 11 日 ～12 日	モニタリング	漁場環境観察	2	簡易プールを設置、生き鮎を放流し、鮎掴み及び串のさし方、化粧塩の付け方の料理教室
6月 15 日	モニタリング	鮎の調査釣り	21	たかはし河川生物調査への調査委託 調査員は、全員ボランティア参加で漁場環境、成長度、大きさ、数を調査

(2) 活動内容写真

河川敷清掃



草刈り



出前講座（稚鮎放流体験）



座学



鮎の撈み取り



料理教室



3. 活動の状況と今後の課題

保全活動の草刈り作業は、気候、作業場所の自然要因と従事する者の年齢、体調、技術の人的要因が大きく影響される。異常とも言える温暖化が進む中、高温多湿、雑木・草藪での刈払機使用の作業は、劣悪で大変な危険が内在している。

このため、高齢者が大多数を占める構成員からの作業員募集は簡単にはいかない。

今後は、河川環境の維持を見据えた最小限の草刈り場所の選定、作業員の安全に配慮した作業計画と労働密度に応じた賃金支払を重要課題として取り組む必要がある。

河川環境を守り、水の大切さ、水中生物と接することを主眼とした鮎の放流体験は、3つのこども園と1つの小学1年生を対象とした。また、鮎の座学、掴みどり、料理教室は、1つのこども育成会で実施した。担当の教師、会の役員、及び父兄から余りあるお礼と感謝が伝えられ、併せて次年度もと要望された。また、直接に児童から“ありがとう”的な発声には、言い尽くせない喜びと嬉しさを与えてくれた。“やってよかった。”“来年もやるぞ”との想いが湧き上がる。心底、この事業だけは永遠に残したいものである。課題は、予算や人的資源からこの事業が市内の全児童を対象とできないことにある。ローテーション方式の採用や関係団体、地域、行政との協力が不可欠と考える。

⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）

1. 地域の概要

日野川は一級河川九頭竜川の支流で、流路延長は 71.5km の県管理河川である。福井市、鯖江市、越前市、南越前町を流れ、日野川漁業協同組合の漁場となっている。主要な魚種はアユ、ヤマメ、イワナ等であるが、中でもアユが最も重要な魚種となっており、漁協はアユ中間育成施設を設置し、放流用アユ稚魚の生産・放流を行っている。漁協では、年間を通して遊漁証を販売して釣り人を受け入れるとともに、環境の整備を進めている。



2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 26 日 (活動 11 年目)

(2) 構成員の数と形態

構成員 361 名 (内訳：漁業者 119 名、漁業者以外 242 名)

(3) 活動延べ人数

平成 25 年度 209 人

平成 26 年度 594 人

平成 27 年度 667 人

平成 28 年度 456 人

平成 29 年度 445 人

平成 30 年度 436 人
令和元年度 498 人
令和 2 年度 393 人
令和 3 年度 342 人
令和 4 年度 274 人
令和 5 年度 241 人
令和 6 年度 318 人

(4) 対象地域での活動歴

日野川環境整備協議会では、今年も引き続き環境保全に大きな影響を及ぼす内水面の生態系の維持・保全・改善（草刈りや清掃活動）の活動を実施してきた。

3. 保全活動の対象範囲

(1) 活動場所



4. 活動の実施状況及び効果

日野川環境整備協議会は、設立以降活動 11 年目となった令和 6 年度も、地域住民と協働して草刈りや河川清掃を実施した。雑木、雑草は背丈を超える高さに成長し、活動を進めた結果、害虫や野生動物からの悪影響を予防した。また有害植物の河川進入を防ぎ、良好な河川環境を維持することが出来た。さらに進入路が明確になり利用者の事故防止につながった。

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備 考
R6. 4. 6	モニタリング	生態系の調査	2	鯖江市石田橋下流左岸
R6. 4. 19	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	1	協定流域
R6. 5. 8	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	1	協定流域
R6. 5. 11	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	協定流域
R6. 5. 12	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	協定流域
R6. 5. 16	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	協定流域
R6. 5. 17	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	協定流域
R6. 5. 18	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	7	協定流域
R6. 5. 19	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	協定流域
R6. 5. 21	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	2	協定流域
R6. 5. 23	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	2	協定流域
R6. 6. 1	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	協定流域
R6. 6. 2	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	80	協定流域
R6. 7. 10	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	5	協定流域
R6. 7. 11	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	協定流域
R6. 7. 12	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	35	協定流域
R6. 8. 4	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	協定流域
R6. 8. 5	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	協定流域
R6. 8. 16	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	37	協定流域
R6. 8. 31	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	11	協定流域
R6. 9. 1	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	43	協定流域
R6. 9. 8	モニタリング	生態系の調査	11	日野大橋上流
R6. 9. 14	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	50	協定流域

(2) 活動内容写真

R6.4.6 モニタリング



R6.4.19 河川清掃活動



R6.5.8 河川清掃活動



R6.5.11 河川清掃活動



R6.5.12 河川清掃活動



R6.5.16 河川清掃活動



R6.5.17 河川清掃活動



R6.5.18 河川清掃活動



R6.5.19 河川清掃活動



R6.5.21 河川清掃活動



R6.5.23 河川清掃活動



R6.6.1 河川清掃活動



R6.6.2 河川清掃活動



R6.7.10 河川清掃活動



R6.7.11 河川清掃活動



R6.7.12 河川清掃活動



R6.8.4 河川清掃活動



R6.8.5 河川清掃活動



R6.8.16 河川清掃活動



R6.8.31 河川清掃活動



R6.9.1 河川清掃活動



R6.9.8 モニタリング



R6.9.14 河川清掃活動



5. 活動の成果と今後の課題

年間を通して計画通りに活動を実施することが出来た。昨年課題となつた構成員の高齢化について、今年は地域ごとに少人数のグループを作つて活動を実施することにより、効率的な活動を定着させることが出来た。

今後は日野川漁業協同組合のホームページ等を活用し、活動内容を多くの方に知つていただき、流域の整備状況や釣りに関する情報等をPRしていきたい。今後も引き続き環境整備の活動に多くの理解が得られるように努めたい。

⑨ 河野川清流保存会（南越前町）

1. 組織の概要

河野川清流保存会は、令和4年8月に発生した豪雨災害により被災した南越前町赤萩地先を流れる河野川において、河川清掃活動等を実施することで同河川の環境保全や水産資源の維持・回復を図ることを目的として、河野川漁業協同組合を中心に赤萩区や、その他趣旨に賛同する者を構成員として、に発足した。

(1) 活動組織の発足年月日

令和6年2月22日

(2) 構成員の数と形態

構成員 75名（内訳：漁業者 28名、漁業者以外 47名）

構成員 河野川漁業協同組合、赤萩区他

2. 活動の実施状況

令和6年度は、河川の環境保全に努めるとともに、水産資源の維持、回復を目的として、河野川の清掃活動を実施し、モニタリングによる現状把握を行った。また、地元小学校の生徒を対象としたアユ、ヤマメの稚魚放流体験教室を実施し、川に生息する水生生物や、川をきれいにすることの大切さを学習してもらった。

(1) 本年度の実施状況

活動日	活動区分	活動内容	人数	備 考
8月10日 10月20日	保全活動	河川清掃	24	赤萩集落下流の魚道付近を清掃
	保全活動	河川清掃	23	丸山団地付近の河川清掃（流木処理）
6月3日	啓蒙活動	教育学習 (放流体験)	27	赤萩集落内（河野小学校12名）
7月26日 10月21日	モニタリング	調査捕獲	4 4	桜橋から河野川河口までの区間（5箇所） 桜橋から河野川河口までの区間（5箇所）

(2) 活動內容写真

8月10日 河川清掃状況



10月20日 河川清掃状況（河川内流木処理）



6月3日 教育学習



7月26日 モニタリング



10月12日 モニタリング



3. 活動の状況と今後の課題

天候の影響により計画した実施時期に変更が生じたが、活動内容的には一通り実施することができた。教育学習においては、小学校の児童に河川環境保全の必要性と、水生生物のやくわりや親しみを伝えることができた。

令和4年8月に被災した河川護岸等については、復旧工事により何とか元の姿に戻りつつあるが、上流域からの土砂の流入が今なお続き、河野川の地域資源にかかる環境保全、水生生物の保護・増殖等に甚大な影響を及ぼしている。

この現状を鑑み、会として、できることをできる範囲で、前向きな気持ちを持って取組んでいくことを共通認識とし、更なる組織の拡大を目指していきたい。

⑩ 敦賀河川を守る会（敦賀市）

1. 漁業の概要

敦賀河川を守る会の主な構成員は、敦賀河川漁業協同組合に所属している。敦賀河川漁業協同組合の主な漁獲対象魚種はアユとヤマメ等の渓流魚で、笙の川・黒河川・木の芽川の3河川に年間600人前後の遊漁者が県内外から釣りに来る。組合は、令和6年度はアユを1,100kg、ヤマメ80kg、イワナ20kgを放流するとともに、産卵場の保護・造成に努め、天然資源の増加に向けた活動を行っている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成25年7月31日 活動11年目

(2) 構成員の数と形態

構成員20名（内訳：漁業者13名、漁業者以外7名）



(3) 活動延べ人数

277人（令和6年度）

(4) 対象地域での活動歴

敦賀河川漁業協同組合では、河川清掃を以前から継続して実施するとともに魚類資源の増殖活動を行ってきた。

3. 保全活動の対象範囲

(1) 活動場所



○ 河川清掃箇所 (5か所・計8ha)

● 出前教室 (中郷小学校)

□ 放流体験 (笙の川・中郷小学校)

■ 川床掘り起し (笙の川)

4. 活動の実施状況及び効果

河川を利用する人が減少したために、河川敷の草木が増殖し、ごみの不法投棄も増加してきたので、組合では定期的に清掃活動を実施してきた。

しかし、河川利用者が増加しない限り、河川環境の悪化が継続することが懸念される。

そのため『水産多面的機能発揮対策事業』により①河川清掃、②小学生の放流体験、③小学校出前教室、④魚観察会とふれあい体験、⑤川床掘り起しと産卵場整備を実施することで、河川環境整備、小学生への教育と啓発を図ることとした。

(1) 本年度の活動実施状況

本年度は、①河川清掃活動とモニタリング（清掃後の状況・水生生物）、②小学生の放流体験、③小学校出前教室、⑤川床掘り起しと産卵場整備を実施した。なお、魚観察会とふれあい体験は、猛暑とコロナの関係で中止となった。

活動日	活動区分	活動の内容	参加 人数	備 考
R6. 4. 11	年間活動計画	計画・打ち合わせ	10	

R6. 5. 1	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	10	衣掛橋上流
R6. 5. 10	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	8	衣掛橋下流
R6. 5. 14	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	9	奥野橋
R6. 5. 15	教育・学習	放流体験	85	事務所前・中郷小
R6. 5. 19	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	7	鳩原
R6. 5. 23	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	8	愛発公民館前
R6. 6. 4	生物モニタリング	水生生物調査	5	5か所
R6. 6. 26	第1回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R6. 7. 26	第2回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R6. 8. 26	第3回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R6. 9. 24	第4回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R6. 9. 25	教育・学習	出前教室	75	中郷小学校
R6. 9. 30	産卵場整備	川床掘り起しと整地	7	笙の川
R6. 10. 18	第5回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R6. 11. 11	生物モニタリング	水生生物調査	5	5か所
R6. 11. 15	第6回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R6. 12. 11	川床掘り起し	生息環境改良	6	道口事務所前
R6. 12. 12	川床掘り起し	生息環境改良	6	衣掛～JR鉄橋
R6. 12. 13	川床掘り起し	生息環境改良	6	JR鉄橋～堂橋
R6. 12. 14	川床掘り起し	生息環境改良	6	堂橋～堂新橋
R6. 12. 15	川床掘り起し	生息環境改良	6	堂新橋～合流点
参加人数合計 277名				

(2) 河川清掃活動とモニタリング

令和6年5月1日に衣掛橋上流地区(0.7ha)、5月10日に道口・衣掛橋下流地区(1.0ha)、鳩原地区(3.0ha)、5月14日に奥野橋地区(0.1ha)、5月19日に鳩原地区(3.0ha)、5月23日に愛発公民館前地区(3.2ha)の草刈りと清掃活動を実施した。

また、草刈りを実施した5か所について、6月から11月にかけて各月1回のモニタリング調査を実施した。

河川敷清掃活動



活動前の集合写真



活動日時等の記録



草刈り活動前の状況



草刈りと清掃活動状況



草刈りと清掃活動状況



収集したゴミ

モニタリング活動(日常モニタリング・清掃後の変化・6月から11月まで月一回)



集合写真



活動日時等の記録



清掃1か月後



清掃5か月後

モニタリング活動(定期モニタリング・水生物調査・年二回)

令和6年6月4日と11月11日に、草刈り・清掃活動を行った5地区で、水生生物の採集調査を実施した。

調査には、口径25cm×25cm 目合い0.5mmのサーバーネットを用い、1地区で2か所の採集を行い、採集物は50%アルコールで保存した後に実体顕微鏡で分類した。

各地点共に、カゲロウ類の幼虫やトビケラ類の幼虫が確認でき、きれいな水質であることが示された。



調査前の集合写真



活動日時等の記録



採集状況



採集状況

(3) 放流体験と学校出前教室

令和6年5月15日に中郷小学校2年生による放流体験を、9月25日に同小学校で出前教室を開催し、鮎の生態などの説明、鮎釣りの方法、クイズなどを行い、福井の川で見られる魚の図鑑などを配布した。



稚鮎の放流（マスコミ取材もありました）



鮎の生態などを熱心に聞いている



鮎釣りの方法を説明（鮎釣り名人）

(4) 川床掘り起しと産卵場整備

令和6年9月30日に産卵場の整地作業を実施した。

本年度は木の芽川と笙の川の合流点から三島橋までの産卵場で重機による掘り起こしを実施するとともに、手掘りによる掘り起こしも実施した。

産卵場整備



集合写真



整備前の状況（多量の土砂）



重機による産卵場整備



川床掘り起し

令和5年12月18日～20日、26・27日の計5日間、川床の掘り起しを計2,500mの区間で実施し、魚類の生息に適した浮石状態の川床への改良を実施した。

今年も大雨で大量の土砂が流入しており、掘り起しの効果は大きかったと考える。



オペレーターとの打合せ



活動日時等の記録



川床の掘り起し作業

5. 今後の課題と計画

川床が浮石状態の良好な環境だったものが、近年では砂の堆積により石が埋没してしまい、川床が固くなるとともに水生昆虫の生息にも支障をきたし餌環境が悪くなっている。

重機による河川改良は作業しても一年で元に戻ってしまうため抜本的解決策の研究が必要である。

魚の遡上を助けるために設置された魚道も老朽化や魚道の入り口に砂が堆積したりして遡上が困難な魚道が多くなっており、改善が必要であるが、管理者との協議が順調に進まないことが多い、予算の問題も加わって解決に至らないものが大部分である。

また、昨年は天然遡上するアユが例年より多く、稚鮎の放流量を前年と同じにしたためか、過密となり、水量不足もあり、成長が極めて悪かった。天然遡上鮎の量を早期に予測できれば、放流量の調整が可能となることから、予測技術の研究開発が望まれる。

今年度は放流体験と出前教室は実施できたが、夏季のふれあい体験は猛暑とコロナウィルスの感染防止のために中止した。

ふれあい体験は参加者が増加傾向にあったことから、開催場所を従前の狭い橋の下から、より広い場所での開催を検討する必要がある。

出前教室については、他の学校からも要望があるので追加する必要もあるが、学校数が増加すると日程調整が困難となる事が課題である。

河川環境の改善に向けて、河川環境の改善や魚道の改良が必要であり管理者との継続的な協議が必要である。

⑪ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）

1. 地域の概要

敦賀市は、福井県の中央部に位置し、人口約6万2千人の市である。当グループの活動場所はリアス海岸が敦賀湾を囲む西浦地区と東浦地区である。敦賀湾は日本海の荒波の影響を受けにくい養殖漁業に適した海域や、湾口から波が押し寄せる岩礁が点在する海域など、季節や天気によって、また場所によってさまざまな表情を見せる魅力ある海である。湾奥部には日本三大松原である名勝地「氣比の松原」が位置している。

2. 漁業の概要

敦賀湾磯焼け防止会の主な構成員は、敦賀市漁業協同組合に所属している組合員であり、湾内では定置網漁や養殖漁業、ナマコ桁網漁、タコつぼおよびかご漁、一本釣り漁、素潜り漁、磯見漁、刺網漁が行われ、湾外では延縄漁、刺網漁、タコつぼ漁、一本釣り漁を行っており、主にサワラ類、アジ類が多く漁獲されている。中でも延縄漁で漁獲される甘鯛は「若狭ぐじ」としてブランド化されている。養殖漁業では、昭和50年代からマダイ、トラフグ養殖が行われており、「敦賀真鯛」「敦賀ふぐ」としてブランド化されている。

3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和4年12月1日（活動2年目）

(2) 構成員の数と形態

構成員179名（内訳：漁業者171名、漁業者以外8名）

(3) 活動延べ人数

113人（令和6年度）

食害生物の除去、海藻の種苗投入、モニタリングを行い、それぞれ74人、24人、12人が参加した。教育活動については3月5日に3人が参加して実施予定である。

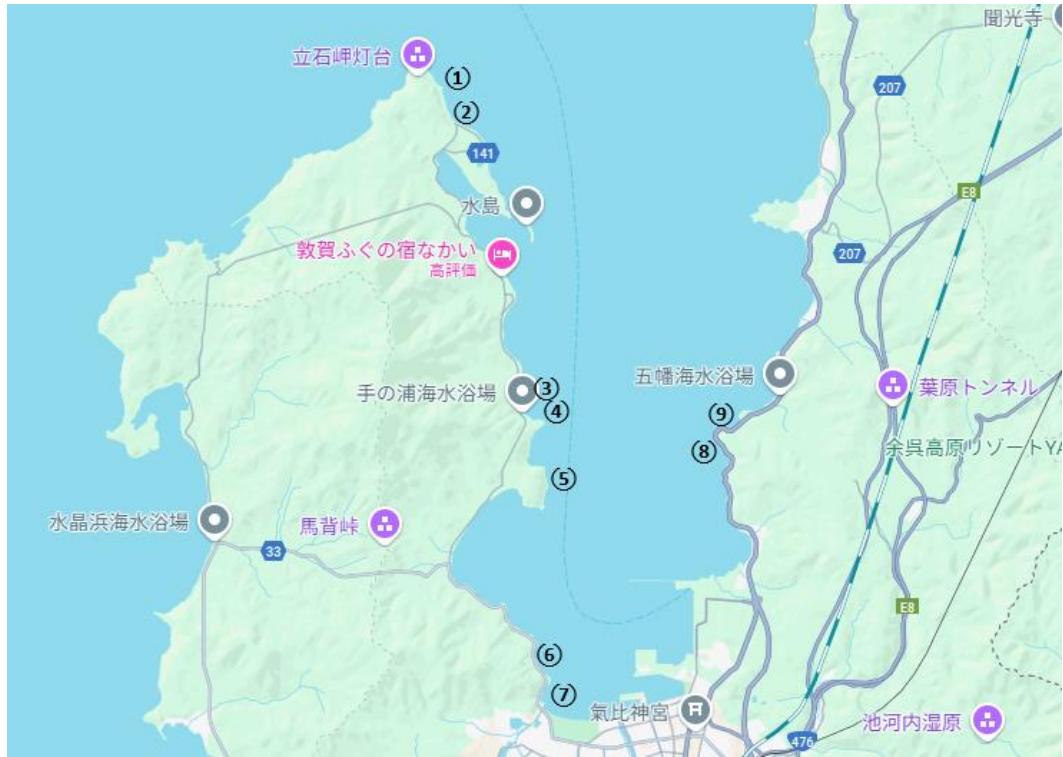
(4) 対象地域での活動歴

以前から個人で素潜り漁をする際に、食害生物であるムラサキウニの駆除を行っていたが、普段は自分の地先しか潜らない敦賀の漁師が協力し合って海藻を増やそうと、令和4年に当会を結成し、令和5年から活動を行った。

敦賀市漁業協同組合が藻場造成に効果のあるカキ殻を詰めた魚礁を設置したり、国交省や民間の業者が主体となって海藻に必要な栄養素が含まれたプレートをそれぞれが設置するなどの藻場再生の取り組みが敦賀湾で行われているが、それでも磯焼けはまだまだ改善していないという背景があった。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所



食害生物の除去①～⑨ 計 9箇所 海藻の種苗投入②、③、⑤、⑥、⑧、⑨ 計 6箇所

モニタリング ①～⑨ 計 9箇所

(2) 対象資源の現状・課題

敦賀湾沿岸の中でも環境は地区によって異なっているが、今回設定した地区では磯焼けが起っていた。磯焼けが直接の原因かどうかわからないが、敦賀湾では痩せたアワビやアワビの死骸が見つかったり、シタダミが居なくなったり、モズクの減少等が確認されている。

海中を潜ると岩に海藻が生えず剥き出しになり、そこに大量のムラサキウニが付いている様子が見られる箇所があり、このような箇所を拡大させてはならないと感じる。

敦賀湾の中でも、磯焼けが起きていたがムラサキウニの採取と養殖用ワカメを繁殖目的で育てるなどの活動を以前から行っていた地区的漁師は磯焼けが改善してきたと言っているので、敦賀湾全体で改善されるような活動が必要である。

水産試験場に敦賀湾の磯焼けについて問い合わせをしたところ、磯焼けの調査を行ったことはあるが、その原因まではわからず、様々な要因が重なっているのではないかと回答を貰った。水産試験場でも原因がわからないのであれば、考える原因を自分達で解決していく他ないが、地球温暖化や海工事の影響であればどうすることもできず、海藻を食べるムラサキウニが磯焼けを加速させる原因の一つと考え、その駆除を継続し、海藻の種苗投入等を行って試行錯誤するしかない。

5. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者	備考
R6. 9. 3	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	5名	漁業者、組合職員
R6. 9. 5	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	6名	漁業者、組合職員
R6. 9. 6	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	4名	漁業者、組合職員
R6. 9. 11	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	9名	漁業者、組合職員
R6. 9. 12	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	8名	漁業者、組合職員
R6. 9. 19	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	14名	漁業者、組合職員
R6. 9. 20	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	9名	漁業者、組合職員
R6. 9. 25	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	6名	漁業者、組合職員、県職員
R6. 9. 26	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	5名	漁業者、組合職員
R6. 10. 1	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	4名	漁業者、組合職員
R6. 10. 11	藻場の保全	食害生物の除去（ウニ類）	4名	漁業者、組合職員
R6. 12. 2	藻場の保全	海藻の種苗投入	10名	漁業者、組合職員、県職員
R6. 12. 4	藻場の保全	海藻の種苗投入	3名	漁業者、組合職員
R6. 12. 17	藻場の保全	海藻の種苗投入	3名	漁業者、組合職員
R6. 12. 10	藻場の保全	海藻の種苗投入	3名	漁業者、組合職員
R6. 12. 10	藻場の保全	モニタリング	4名	漁業者、組合職員
R6. 12. 11	藻場の保全	海藻の種苗投入	2名	漁業者、組合職員
R6. 12. 12	藻場の保全	モニタリング	2名	組合職員
R6. 12. 17	藻場の保全	海藻の種苗投入	3名	漁業者、組合職員
R6. 12. 25	藻場の保全	海藻の種苗投入	3名	漁業者、組合職員
R6. 12. 25	藻場の保全	海藻の種苗投入	3名	漁業者、組合職員
R7. 3. 5 (予定)	藻場の保全	教育活動	3名	漁業者、組合職員

(2) 活動の内容と効果

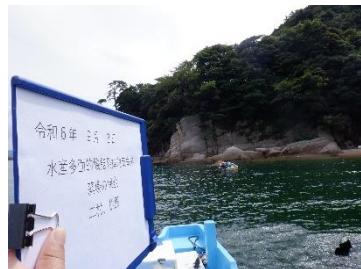
9月から食害生物の除去、ムラサキウニの駆除を行った。9月3日から10月11日に渡り延11日間、29.5時間、ムラサキウニの駆除活動を行った。ムラサキウニの生息数は多く、一人当たり1時間で100匹以上駆除してもまだまだ生息しているようだった。また、ガンガゼも多く見つかった。

12月に海藻の種苗を入れた魚かごを6基海底に投入した。今後の成長に期待する。同じく12月に9箇所のモニタリングを行い、活動が必要であることを確認した。

翌年3月に敦賀南小学校の5年生を対象に教育活動を行い、昨年は1コマだったが今年は2コマの予定している。

(3) 活動内容写真

食害生物の除去



海藻の種苗設置



モニタリング



6. 活動の課題

敦賀市の漁業者は先に述べた通り様々な漁業種で生計を立てているが、季節や漁期によって漁業種を変える人が多い。その中でも、地区によって漁期は異なるが、多数が夏季に素潜り漁や磯見漁を行う人が主となってこの活動を行っている。その活動の中でも、負担が重いのが食害生物の除去である。素潜りには慣れているが、漁獲することではなく、ハママーなどを海中で振り続け、堅いウニの殻を割る作業は体力的に負担が掛かる。午前2時から定置網漁を操業し、7時過ぎに水揚げを終えて9時からウニの駆除をする人も居て、若くもない活動者たちが疲労困憊の様子で居るのを見ていると、あと何年この活動ができるのだろうかと感じる。

また、今年度活動した地区には、あまり敦賀湾で見なかったガンガゼを多数発見した。ガンガゼはムラサキウニよりもトゲが非常に長く、長い柄のハママー等でなければ手に刺さってしまう。トゲには毒があるので、刺されて手が腫れてしまった活動者も居た。ウニを割るために柄の長い物でなければならないと、これから活動を行う人には注意喚起しなければならない。

海藻の種苗投入について、種苗はサカイオーベックスから購入しており、その担当者によると、投入時期は海水温の下がる11月下旬以降が望ましいとの説明を受け、天気を見ながら12月2日から順次各地区で設置を行った。冬は時化が多く、設置箇所まで船を出せない所は仮置きし、天気を見ながら6カ所に設置した。昨年度設置した種苗は育った地区もあったが、昨年度の3月に静穏な漁港から活動区域へ移動した種苗は浜に打ち上げられてしまっていた。そのため、今年度は重りとなるブロックを工夫し、カゴから外れないように強化した。その成果が出て海藻が育つことを望むが、本当に効果を求めるのであれば、活動区域外ではあるが、静穏な漁港に約1年間仮置きし、翌年度の種を出す11月ころに活動区域に移設させる活動が認められればいいと思う。

⑫ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）

1. 漁業の概要

本会の主な構成員には、鳥浜漁業協同組合をはじめ、地元の鳥浜区の団体などが所属している。同漁業協同組合では、三方湖において、ウナギ、コイやフナなどを主に漁獲しており、その漁獲方法としては、筒漁、たたき網漁及び柴づけ漁など伝統漁法を継承している。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 30 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 56 名（内訳：漁業者 27 名、漁業者以外 29 名）

(3) 活動延べ人数

61 人（令和 6 年度）

(4) 対象地域での活動歴

今年度もヒシの繁茂が少なく、清掃作業はスムーズに行うことができたが、場所によってはヒシの種子がついた大きなヨシの株もあり、手作業で引き上げるのに苦労した。

また、湖面上に倒れかけている樹木の伐採も行ったが、まだ多くの樹木が見られる。自然に帰らないゴミについても回収しきれない物があり、水質悪化が懸念される。

3. 保全活動の対象範囲

(1) 活動場所



4. 活動の実施状況及び効果

ヒシの繁殖については、その年によって異なるが、発芽後のヒシの種子が特に船溜まりに多く流れ着き、回収に困難を要している。また、台風や集中豪雨により山からの泥水と共に流木やゴミが三方湖に入ってくる。回収しきれないゴミ（大きなヨシの株や流木など）もあるが、回収活動を行っている間は、きれいになっている。しかし、数か月で、またゴミが溜まり始めるのが現状である。

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加人数	使用船隻	備考
R6. 7. 28	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	8人	2隻	
R6. 8. 10	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	8人	2隻	
R6. 9. 19	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	7人	2隻	
R6. 10. 10	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	7人	2隻	
R6. 10. 17	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	5人	1隻	
R6. 11. 21	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	7人	2隻	
R6. 11. 27	保全活動	湖岸漂着物の分別 片付け作業	9人	1隻	
R7. 1. 5	保全活動	モニタリング	4人	4隻	
R7. 1. 16	保全活動	モニタリング	3人	3隻	
R7. 1. 20	保全活動	モニタリング	3人	3隻	

(2) 活動内容写真





5. 今後の課題と計画

湖内には、ヨシの株が流出しており、大きなものは手作業では回収できていない状況である。水際にヨシの再生作業を行い、水質浄化に努めていきたい。また、湖面に倒れている樹木も多く見られるので、地主の方にも協力を得て、伐採を行っていく必要がある。

魚達が住みよい環境となるようゴミのない美しい湖を目指し、継続した保全活動を行っていかなければならない。

⑬ 世久見海士組合（若狭町）

1. 活動組織の概要

本グループの主な構成員は世久見大敷網組合、若狭三方漁業協同組合に所属している世久見地区の素潜り漁師で、主な漁獲対象物はアワビ、サザエ、アカウニ、ナマコ等である。同地区では、古くから定置網漁業が盛んであったが、近年では若手漁師を中心に素潜り漁も地域の重要な漁法となっている。同地区の漁業者の話によると昔と比べ海藻類の繁藻状況が悪くなっていること、素潜り漁業への影響が心配されている。本グループは食害生物（ムラサキウニ）の駆除や漂流漂着ゴミの清掃を通じて、藻場等の地域資源の維持・回復を図り、次世代の漁業者に継承する活動を行っている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和5年3月1日

(2) 構成員の数と形態

構成員 22名（内訳：漁業者 21名、漁業者以外 1名）

(4) 活動延べ人数

156人（令和6年度）

(3) 対象地域での保全活動歴

令和5年～令和6年の活動で延べ307人が参加。主な活動は下記のとおり。

浜の清掃活動 … 活動回数 19回 回収量 約 10.0t

食害生物の駆除活動 … 活動回数 6回 延べ人数 48人 約 25,000 個（ムラサキウニ）

藻場造成の為の魚礁設置 … カイノス（共和コンクリート工業株式会社） 320基

漂流・漂着ゴミによる海洋汚染の教育活動 … 3回 対象：地元小学生

3. 保全活動の対象範囲

(1) 活動場所



海洋汚染等の原因となる

漂流、漂着物、堆積物処理 1.0ha



藻場の保全 4.0ha

■ : 活動区域 200m × 50m 1.0ha 4か所

■ : モニタリング定点 5か所

4. 活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動項目	活動内容	参加人数	備考
5月7日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	16人	1回目
5月13日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	6人	2回目
5月20日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	3回目
5月27日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	4回目
6月3日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	6人	5回目
6月10日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	6回目
6月11日	藻場の保全	モニタリング	6人	
6月17日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	7回目
6月24日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	6人	8回目
6月通月	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	20人	重機による浜清掃
7月8日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	9回目
9月2日	藻場の保全	魚礁（カイノス）入荷	4人	
9月3日	藻場の保全	魚礁（カイノス）設置	13人	
9月9日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	8人	1回目
9月19日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	10人	2回目
9月25日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	8人	3回目
9月19日	漂流、漂着物処理	学習・教育（海ゴミ講座）	14人	梅の里小学校
9月26日	漂流、漂着物処理	学習・教育（海ゴミ講座）	14人	ゴミ拾い

(2) 活動内容写真

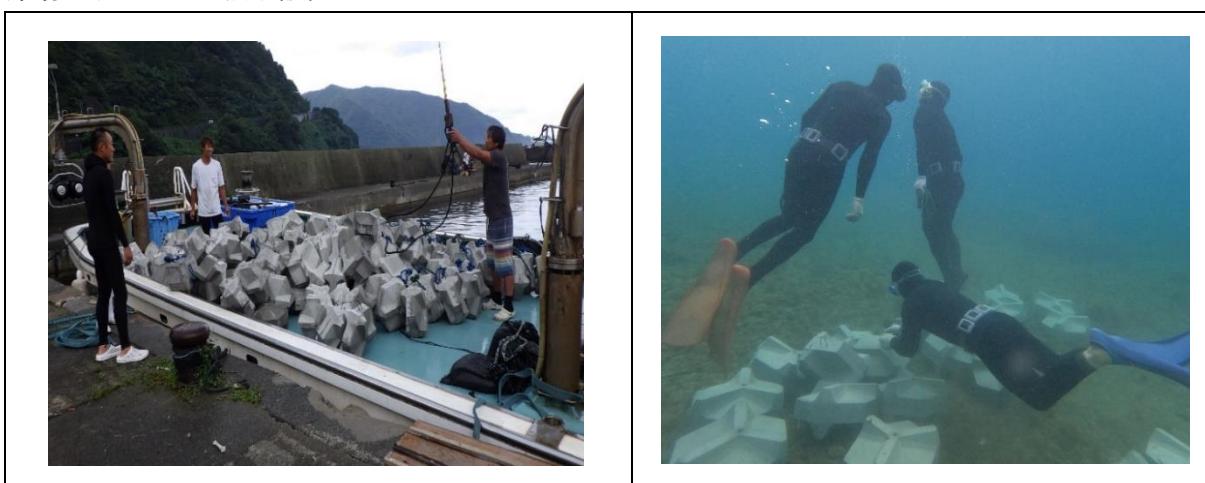
漂流・漂着物の清掃活動



食害生物(ムラサキウニ)の駆除活動

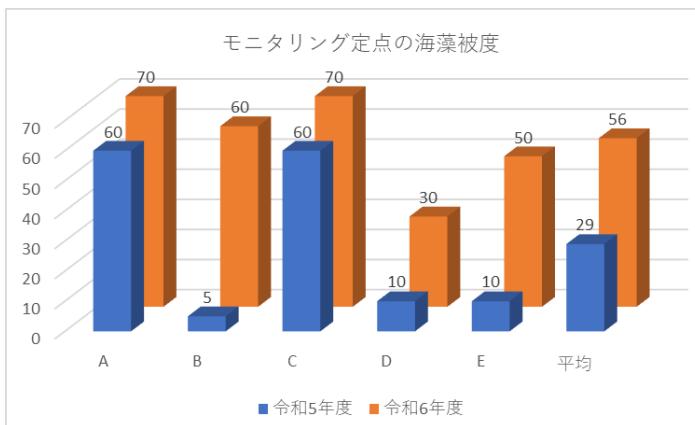


藻場造成のための魚礁設置



(3) 保全活動の効果

前述の保全活動歴の通り漂流・漂着ゴミ清掃活動では2年間で約10.0tのごみを回収している。また、食害生物の駆除活動でも2年間で約25,000個を駆除している。これらの活動の効果を検証するにあたり令和5年6月と令和6年6月に行ったモニタリングの結果を下の図に示す。5か所のモニタリング定点の全てで海藻被度が増えており望ましい結果が得られた。ただ、まだ2年間の活動でありこの結果に自分たちの活動がどの程度寄与しているかは判断できない為、今後も経過観察を続けていきたい。また、昨年設置した魚礁の一部には早くも苔のような海藻が付着しており期待しているところである。



魚礁“カイノス”表面の海藻



5. 今後の課題と計画

近年、同地区では海藻の繁藻状況が悪く地肌の見えている転石も多くみられた。一方で食害生物（ムラサキウニ）の数は数えきれないほど多い状況である。一方で、昨年度の活動で食害生物駆除を行った海域では海藻被度が増えており、活動のモチベーションにつながっている。次年度以降も同様の活動を根気強く続けていきたい。

⑯ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）

1. 漁業の概要

約 20 年前に漁獲量の減少が止まり、低調に推移している中で、魚価の低迷が進み、漁業経営の環境は厳しい状況となっている。また、推計であるが小浜湾内の藻場は約 600ha であったが、近年では 156ha にまで減少した。また、カキ養殖が盛んな地域だが、近年は不作の状況が続いている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 29 年 3 月 1 日発足 活動 7 年目

※平成 25 年発足の海のゆりかごを育む会と平成 15 年発足の小浜市豊かな海の森を育てる会が合併し、当会を発足した。

(2) 構成員の数と形態

構成員 401 名（内訳：漁業者 274 名、漁業者以外 127 名）

(3) 活動延べ人数

310 人（令和 6 年度）

(4) 対象地域での保全活動歴

仏谷においてアマモ場の保全活動、矢代・西津・仏谷においてウニの密度管理、全域において藻場増殖礁の設置と海岸漂着物の回収を行った。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所（藻場保全：9.69ha 海岸漂着物：4.7ha）



(2) 対象資源の現状・課題

推計であるが小浜湾内の藻場は約 600ha から、近年では 156ha にまで減少している。加えて、台風や冬季の波浪による、海岸漂着物が様々な活動の妨げとなっている。

4. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 藻場の保全

①アマモ場保全

仏谷地区でゾステラマットと牡蠣殻マットを使用してアマモの播種を行った。これまで内湾で実施していたが、今年は海水交換の多い湾口に近い場所に敷設した。また、今年からの取組として、光合成細菌や光触媒を使用して効果を見ている。

②藻場増殖礁の設置

小型の藻場増殖礁を 15 基 3 か所（阿納 5 基、志積 5 基、田鳥 5 基）において設置。設置場所については、県立大学によるサポートと漁業者の知見で設定した。

③ウニの密度管理

7 月に矢代地区でウニ駆除を実施した。昨年も一度の実施だったので手が入っていないところは磯焼けの進行が見られた。また 11 月、12 月に志積地区で 5 回ウニ駆除を実施した。川崎地区でも 9 月に 2 回実施した。

(2) 海岸漂着物の回収

各集落に回収用フレコンバッグを配布し、集落単位での回収活動を行っている。フレコンバッグを配布しておくことで、一斉清掃だけでなく、日常的な回収作業も行っている。また、時化による漂着物についても可能な範囲で回収を行った。

昨年に引き続き今年も勢浜海岸で清掃活動を行った。今年は若狭高校海洋科学科の生徒と一緒に清掃をして、集めたごみを後日分析してごみの種類やどこから流れてきたかを調べた。

障害者就労支援施設と委託契約を行い、漂着物処理事業を実施した。

(3) 教育・学習活動

漂着ごみについては、親子・一般対象の講座や高校生・大学生対象の講座を行った。

藻場については、高校生対象の講座を行った。

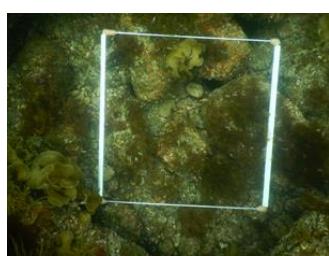
(4) 活動実施状況（2月末まで）

実施時期	活動項目	活動内容	人数	備考
R6. 6	藻場の保全	アマモモニタリング	3	仏谷
R6. 6	藻場の保全	アマモ視察	2	明石市江井ヶ島
R6. 6	海岸漂着物	海ごみ学習	26	内外海小学校
R6. 7	藻場の保全	藻場モニタリング	7	矢代
R6. 7	海岸漂着物	藻場学習	1 参加者 7	若狭高校 7 名
R6. 7	藻場の保全	ウニ駆除	8	矢代
R6. 8	海岸漂着物	海岸漂着物回収	20	田鳥
R6. 9	海岸漂着物	海岸漂着物	2 参加者 11	一般参加 11 名
R6. 9	藻場の保全	ウニ駆除	4	川崎地区
R6. 9	藻場の保全	ウニ駆除	4	青井付近
R6. 10	藻場の保全	母藻の設置	14	15 基 3 箇所
R6. 10	藻場の保全	アマモの播種	18	仏谷
R6. 10	海岸漂着物	海ごみ学習	3 参加者 9	青山学院大学 8 名 スタッフ 1 名

R6. 10	藻場の保全	アマモの播種	5 参加者 9	環境保全研究所関係者 9 名
R6. 10	藻場の保全	貝藻くん設置	5	阿納
R6. 10	藻場の保全	貝藻くん設置	3	志積
R6. 10	藻場の保全	貝藻くん設置	6	田鳥
R6. 11	藻場の保全	ウニ駆除	3	志積
R6. 12	藻場の保全	ウニ駆除	2	志積
R6. 12	海岸漂着物	海岸漂着物回収	38	勢浜海岸
R6. 12	海岸漂着物	海岸漂着物回収	35	勢浜海岸
R6. 12	海岸漂着物	海ごみ学習	33	若狭高校
R6. 12	海岸漂着物	海ごみ学習	36	若狭高校

(5) 活動内容写真

①藻場保全



アマモ場とガラ藻場でモニタリングを実施



潜水によるウニ駆除

②海岸漂着物の回収



これまで回収作業を行っていなかった場所での実施

③教育・学習活動



漂着物学習



藻場学習

6. 今後の課題と計画

アマモ場に関しては、敷設場所や敷設方法について研究者らと検討し、新たな取り組みを始めたので、その結果を見ながら保全活動を進めていく予定である。

ウニの密度管理に関しては、NPOからの参加が年々難しくなっているので、漁業者が協力して実施する方向へとシフトしていきたい。

漂着物の処理については、引き続き障害者施設に委託し、効率的な方法を探っていきたい。また、一般市民や生徒・学生の回収作業への参加が進むよう、呼びかけるとともに、教育・学習活動についても積極的に進めていきたい。

⑯ 南川ラインレスキュ一隊（小浜市）

1. 背景

南川は2級河川で天然の鮎も遡上する豊かな川だが、最近は山から流れ出る土砂等が鮎の成育にも影響を及ぼしている。また草や木が生い茂り、景観の悪化から危険な場所という認識やゴミの不法投棄に繋がっているのが現状である。

現在、河川組合員等の漁業者も高齢となっており、良好な河川を次世代につなぐために、川を守りたいという機運を盛り上げることが急務である。現代の子ども達は南川で遊んだ経験がなく、このままでは良好な川を次代につなぐ者がいなくなるのではという危機感から過去に遊んだ記憶のある有志が集まり美化活動と教育活動(体験)を開始。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成29年2月7日発足 活動8年目

(2) 構成員の数と形態

構成員100名（内訳：漁業者15名、漁業者以外85名）

(3) 活動延べ人数

300人（令和6年度）

(4) 対象地域での保全活動歴

南川で、ヨシ帯の保全活動、川のごみ清掃、水質調査、モニタリング及び小学生を対象とした教育学習を実施している。

3. 活動の実施状況及び効果

(1) 河川のゴミ清掃・草刈り

年間2回実施。構成員の活動がしにくい状況もあり人数を制限して実施。活動エリアにおいて例年の作業実績により不法投棄のごみの量が減少しつつある。また、例年外来植物の除去を行っているエリアでは、外来種の植物が減ってきており、効果が出ている。

(2) 教育活動

南川流域にある今富小学校において学年を固定して座学と現地学習を交え年間を通して総合的に実施して8年目。草刈りやゴミ拾い、水辺の安全講習、水質調査、生き物調査、鮎の捕獲方法や鮎の実食体験を専門家の協力を得て深めている。

その年の学習の方向性などを踏まえ、児童の学びの意欲を引き出した取り組みなど正在して自発的な行動に結び付いている。成果として南川の環境や生息する生物生態など学んだことを後輩や保護者に発表し、南川の環境保全の意識拡大につなげている。

(3) 水質調査

水温や水質、透明度の調査、試薬を使ったCOD等の測定を実施。計測方法を大学の先生の協力を得て学び、数値的に良好な川であると確認できた。

(4) モニタリングについて

水生生物による環境指標で南川の状態は良好であることが確認できた。生き物の特性を知ることで河川と海のつながりを実感することができた。

(5) 活動実施状況

実施日	活動項目	内容	場 所	人 数	内 容
5月21日	内水面 ヨシ帯	草刈り ゴミ拾い 水質調査	南川左岸	62	草刈り、ゴミ拾い、外来植物除去、専門家の指導のもと水質調査を実施【今富小学校も参加】
6月20日	教育活動	安全講習	南川左岸	61	専門家から南川で体験する際の安全管理講習【今富小学校】
7月2日	教育活動	生き物事前学習	今富小学校	57	専門家による川の成り立ち、水生生物座学【今富小学校】
7月9日	内水面	生き物調査 モニタリング	南川左岸	61	水生生物を採集し、モニタリング【今富小学校も参加】
9月5日	内水面	モニタリング	南川左岸	1	鮎を投網で捕獲し、モニタリング
9月24日	教育活動 内水面	ゴミ拾い& 草刈り 鮎の実食 体験	南川右岸	60	川漁師に学ぶ漁具と使い方、鮎の観察と実食。環境美化【今富小学校】

(6) 活動内容写真

ヨシ帯保全活動、ごみ拾い



モニタリング(生き物調査)



小学校教育活動(生き物座学)



4. 効果と課題

清掃活動およびヨシ帯保全については、教育活動による意識改革は地域にも大きな効果を生んでいる。南川をフィールドに一年を通して総合的に環境学習に取り組むことにより、子ども達が自主的にゴミ拾いをする姿が見られるなど環境保全に対し意識の醸成が生まれていることを感じる。生物調査においても継続して安定の状態が見られている。

子ども達の積極的な活動は保護者への啓発にもつながり、学習に取り組んできた子ども達が後輩へ劇や紙芝居を通して南川の環境を守っていくことの大切さを伝えるなど、活動が受け継がれている。

清掃活動については、人材不足により活動の限界もあり縮小していくかざるを得ない状況である。関わるメンバーの減少は否めないが、子ども達が南川を通して、未来へ良好な環境維持の大切さを受け継いでいく気持ちを醸成できるよう、今後も活動をコーディネートする仕組みづくりと人材育成を考えていきたい。

⑯ おおい町大島地区の海を守る会(おおい町)

1. 漁業の概要

大島地区は漁業が盛んな地域であり、種苗放流やウニ駆除など資源保全・確保に努めているが、近年のサザエ・アワビの漁獲量は低下傾向にあり、漁業経営は厳しい状況となっている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和4年2月25日

(2) 構成員の数と形態

構成員 72名（内訳：漁業者 60名、漁業者以外 12名）

(3) 活動延べ人数

30名（令和7年1月31日時点）

(4) 対象地域での保全活動歴

大島長浦周辺において、ムラサキウニの密度管理や駆除、大島地域の小学生に環境学習を実施した。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所(長浦 藻場保全面積 5.6ha) 環境学習(大島小学校)



(2) 対象資源の現状・課題

近年、大島長浦周辺では目視で確認できるほどのムラサキウニの大量繁殖によって、藻場が荒らされておりサザエ・アワビの餌場が減少している。それに伴い漁獲量も減少し、今後の資源確保が課題となっている。

4. 活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R6. 6. 20	モニタリング	藻場状況の確認	6名	大島長浦
R6. 7. 10	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	19名	大島長浦
R6. 7. 21	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	18名	大島長浦
R6. 8. 5	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	17名	大島長浦
R6. 9. 9	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	22名	大島長浦
R6. 9. 9	保全活動	藻場環境学習準備	5名	大島小学校

(2) 活動内容写真

「モニタリング」

(海藻等のモニタリング)



「藻場の保全」有害生物の除去





(活動參加者)





(教育学習)



(3) 効果

活動も3年目に入り、藻場に関する知識や意識が漁業者の間で高まり、意見交換する場なども見受けられた。駆除作業も場所を変えながら密集している箇所を優先的に行っていった。次年度で最終年であり、活動を終えたときに皆が満足いく成果が出るように引き続き活動を行っていきたい。

5. 今後の課題と計画

漁業者の高齢化に伴い、年々活動に参加される方が減少している。特に採貝藻業は体力が必要であるが、活動組織のメンバーの多くは60代を超える方が多い。参加者は今後も減少していくことが見込まれるが、年配漁業者でも参加できるよう負担軽減が期待できるユニバスターなどの機器も試してみたい。

⑯ 若狭高浜ブループロジェクト活動報告

1. 漁業の概要

若狭高浜ブループロジェクトの主な構成員は、若狭高浜漁業協同組合に所属しており、様々な漁業が盛んである中、サザエ・アワビ・アカガレイの種苗放流等も行っており、年間を通じて藻場の恩恵を受けている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和2年2月10日

(2) 構成員の数と形態

構成員 165名（内訳：漁業者 161名、漁業者以外 4名）

(3) 活動延べ人数

令和2年度 53人

令和3年度 46人

令和4年度 28人

令和5年度 32人

令和6年度 36人（令和7年1月27日時点）

(4) 対象地域での保全活動歴

高浜町では、「若狭高浜ブループロジェクト」が主体となって、継続的に保全活動の計画づくり、モニタリング、藻場の保全活動として、有害生物の除去（ムラサキウニの駆除）や母藻（貝藻くん）の設置活動、及び廃棄物（ムラサキウニ）の利活用方法の検討・試作を実施してきた。また昨年度と同様にワカメの種苗糸を使用し、母藻の設置を行なった。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動位置（高浜地区・和田地区藻場面積：9.75ha）

保全活動対象範囲(9.75ha)

● 活動範囲

○ モニタリング位置



(2) 対象資源の現状・課題

近年、藻場の減少が深刻化しており、その原因となっているのは十数年前より大量繁殖したムラサキウニによる食害である。本年度の活動位置である高浜地区鷹島周辺等は、目視でも確認できるほどのムラサキウニに埋め尽くされている。十年前にはウニ漁も行っていたが、現在は行っておらず、ムラサキウニは増加の一途であり、サザエ・アワビ等の餌となるホンダワラ類を中心に減少しているため、次世代漁業者に向けた水産資源の維持・確保が課題となっている。

4. 活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R6. 7. 26	モニタリング	藻場状況の確認	5名	高浜地区・和田地区
R6. 9. 17	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	3名 2,080個	和田地区和田港 釧迦浜周辺
R6. 10. 1	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	3名 3,300個	高浜地区若宮周辺
R6. 10. 2	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	4名 2,300個	高浜地区鷹島周辺
R6. 11. 19	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2名	ワカメの種苗糸設置準備
R6. 11. 20	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2名	ワカメの種苗糸設置準備
R6. 11. 21	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2名	ワカメの種苗糸設置準備
R6. 11. 27	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	3名	ワカメの種苗糸設置準備
R6. 11. 28	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	4名	ワカメの種苗糸設置準備
R7. 12. 20	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	3名	ワカメの種苗糸設置準備
R7. 1. 27	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	5名	ワカメの種苗糸設置準備

(2) 活動内容写真

「藻場の保全」活動参加者



「藻場の保全」海藻等の定点モニタリング



「藻場の保全」有害生物の除去





(3) 効果

「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場に有害なウニの除去を行った結果、目に見える範囲で藻場の環境は活動前と比較すると僅かだが改善傾向にあると思われる。また、ウニを除去するだけではなく、利活用をすることで有害生物とされていたムラサキウニへの意識を変えることができた。今後も継続していくことでより効果が期待される。

5. 今後の課題と計画

十数年前には豊かだった藻場は水産資源を確保する上では必要不可欠であり、「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、良漁場の回復に努めていきたい。また引き続き交流の場を広めていき、様々な団体と連携しながら有害生物の利活用や体験学習も取り組み、綺麗な海を守り、海の恵みと一緒に豊かな地域を作っていきたい。